



第140号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第118回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第119回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第125回出題
- ・ Fairy of the Forest #62

結果発表

- ・ 第117回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第123回解答
- ・ 強欲な世界 PART10 解答

読み物

- ・ 強欲な世界 PART11(たくぼん)
- ・ レトロプロブレム入門(2)by 高坂研
- ・ 第4回神無太郎の氾濫 問題編
- ・ やさしい双裸玉 Imitator 蔵出し編(占魚亭)



2020/2

はじめに



置物

さて上の写真の置物は何？

今月に60歳の誕生日で還暦を迎えました。赤いチャンチャンコは遠慮しましたので家内からは赤い干支でもあるはりねずみのスポーツタオル、娘からはお財布、そして息子夫婦から貰ったのが上の置物です。私も人生長く生きて来ましたが始めて見るものです。息子の嫁は台湾の方で、先日旧正月で孫を連れて里帰りをしており、その時に購入したもので、台湾では商売繁盛の縁起物で有名な「台湾檜の置物」ということでした。台湾檜は日本の檜より高級で日本の檜より香り高いものとして重宝されており、先般消失してしまいましたが首里城にも多く建材として使われていたようです。上のとんがった部分は土台から外れ、その部分を鼻に持っていくと本当に檜の香りが満ち満ちています。さっそく事務所に飾りました。先月、七福神の額も飾りましたが、縁起物同士が喧嘩しないか心配です。皆さんも台湾に行く機会がありましたら是非お土産にいかがでしょうか？

先月は、オリンピックに因んだ作品募集を忘れてたり、強欲な世界 PART10 では過去作の元凶を出題したりと失態続きでした。本当に申し訳ありません。これでは厄落としやご利益の恩恵に預かっていないのでは???

本号で WFP は140号となり、150号まであと10号となりました。何か企画を考えないといけません、何か案がありましたら是非ご提案下さい。よろしく申し上げます。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第140号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第118回WFP作品展(再掲)及び 第119回WFP作品展

担当：神無七郎



次回の「神無一族の氾濫」向けの作品募集の告知です。お題は「ルールの回避」。何のことかよく分からないと思いますが、少し詳しく言うと「与えられたルール独自の効果が発動することを回避する」という天邪鬼な狙いを持った作品を募集するという趣旨です。具体例を見ていただきましょう。

例1 「強欲」で駒を取らずに済む着手を選ぶ

神無六郎 作

強欲ばか詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
							王		三
						飛			四
									五
									六
					龍				七
									八
									九

持駒 角2

(詰将棋パラダイス、1993年9月、
第1回神無一族の氾濫)

14角 同飛 89角 78金 同角 13玉
23金 まで 7手

4手目 78より玉に近い位置の金合だと「強欲」の条件により6手目角を取らざるを得なくなります。そこで3手目89角の遠打で78金合として「強欲」の発動を予防します。

このように、あるルールが与えられている時、その効果の発動を避ける着手や構想を含む作品を次回の「氾濫」で募集します。要は天邪鬼な作品の募集ですね。

せっかくの機会なので、他の例もご覧いただきましょう。同じく「第1回神無一族の氾濫」からです。

例2 「対面」で性能変化を回避する

神無七郎 作

対面ばか自殺詰 70手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							將		七
									八
						王		王	九

持駒 歩18

(詰将棋パラダイス、1993年9月、
第1回神無一族の氾濫)

「28歩 38玉 39歩 同玉」×17
28歩 同銀成 まで 70手

28歩に対しては、受方はいつでも「同銀成」とすることができそうですが、持歩が残っていると「29歩」という対面特有の性能変化を活かした逃れがあります。攻方はそれを防ぐために余分な歩を全部捨てます。28歩～39歩は「対面」の効果を使った王手ですが、「対面」の効果を消すために「対面」の効果を使っているの、今回の募集の趣旨から外れていません。むしろ、こういう作品は大歓迎です。

もう一つ、今度はキルケの例をご覧いただきます。キルケは駒が復活するルールなので、その復活を阻止する狙いです。

駒の復活を防ぐ簡単な方法は、連続で同じ種類の合駒をして、復活先を埋めることですが、それは作例が多いので、もう少し凝った方法で復活先を埋める作品を見てみましょう。

例3 「キルケ」で駒の復活を防ぐ

神無七郎 作

キルケばか自殺詰 58手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									角	一		
								馬	歩	王	二	
										王	三	
										桂	四	
									銀	歩	香	五
										桂	六	
											七	
											八	
											九	

攻方持駒 金

受方持駒 金歩2

(Onsite Fairy Mate、2005年4月10日)

22 角生 12 玉 13 角成 同玉/88 角 24 銀 12 玉
 23 銀生 13 玉 79 角 24 金 22 銀生 12 玉
 11 銀成 同玉/39 銀 88 角 33 歩 同角成 12 玉
 34 馬 11 玉 44 馬 12 玉 45 馬 11 玉
 55 馬 12 玉 56 馬 11 玉 66 馬 12 玉
 67 馬 11 玉 77 馬 12 玉 78 馬 11 玉
 88 馬 12 玉 89 馬 11 玉 99 馬 88 歩
 12 歩 同玉/17 歩 89 馬 13 玉 23 馬 同金
 22 桂成 14 角 同香 同金/19 香 24 金 同金/49 金
 23 圭 同金/29 桂 31 角 22 金 まで 58 手

攻方は角を渡したいのですが、角が 88 に復活すると渡せないなので、馬鋸で 88 歩を発生させて復活を阻止します（その効果が具体的に現れるのは 48 手目同金するとき）。序や収束など、「キルケ」の効果が至るところに使われていますが、メインテーマが「復活阻止」であることは明確なので、こういう作品も今回の「氾濫」の募集対象となります。

以上3つの例を挙げましたが、これで今回のお題のイメージは掴めましたでしょうか？

「氾濫 52」の募集要項は本稿の最後に掲載します。フェアリールールを抑制するのが真の狙いという、天邪鬼なフェアリー作品をお寄せください。

では今月の出題です。今回は第 118 回の再掲載分と第 119 回の新規出題です。今年から 1 回の出題数に上限（約 12 題）を設け、特定の作者に登場が偏らないよう調整しています。

そんなわけで、第 119 回は第 118 回の続編的な作品が多いのですが、前回登場されなかった方がお二人いらっしゃいます。たくぼん氏と上田吉一氏です。特に上田氏は第 59 回以来の久々の登場になります。フェアリー駒を使った作品ですが、それほど難しくはないはずですので、ぜひ解答をお寄せください。

〔第 118 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 118 回の出題は 10 題。ツインが 2 つあるので実質は 12 題です（今回から作品数の上限の目安を 12 題としています）。なお、ツイン（組局）は、内容にもよりますが、それぞれの図を 1 題として数えています。

作者は占魚亭氏、高坂研氏、神無太郎氏、変寝夢氏、はなさかしろう氏の 5 名。まずは各氏の投稿作から難度が低いと思われるものを 2 題ずつ選び、残り 2 題も比較的難度が低いと思われるものを選びました。これは 2 月が（うるう年とはいえ）通常より短く、その分解答期間も短くなるためです。今回掲載できなかった投稿作は、次回以降に自動的に繰り越しとなりますので、どうかご了承ください。

118-1 及び **118-2** は占魚亭氏による「点鏡」と「二玉詰」を組み合わせた作品です。二玉詰は両取り狙いが定番ですが、点鏡特有の受けて両取りを防がれないか注意してください。

118-3～**118-5** は高坂研氏による透明駒作品。今回の 3 題にはレトロ解析は要求されません。なお、**118-5** はルールから透明駒の種類は攻方玉に確定しています。問題は位置をどうやって確定させるかですね。

118-6 は神無太郎氏による「点鏡」のツイン。攻方玉の位置が少し違うだけですが、それがどのように手順に影響するかご確認ください。

118-7 及び **118-8** は変寝夢氏の作品。**118-7** は初形で攻方玉に王手が掛かっていますが大丈夫。「駒全マネ禁」なのでちゃんと逆王手が可能です。**118-8** は「All-in-Shogi」なので、相手の駒を動かす王手や応手も考えねばなりません。使用駒制限があり、フェアリー駒として Pao(包) が追加されているので、これをどう使うか先に考えると早く解けるかもしれません。

118-9 及び 118-10 は、はなさかしろう氏の推理将棋。普通の推理将棋ではなく、「All-in-Shogi」の推理将棋です。All-in-Shogi 独自の詰上りや逃れ筋を想定して解いてください。118-10 は条件②が特徴的で、手順の表面だけ見ると普通のルールで指しているように見えるようにします。つまり、All-in-Shogi が関わるのは最終手の詰・不詰の判定だけというわけですね。

〔第 119 回作品展各題への補足説明〕

第 119 回の出題は 11 題。複数解を求める作品があるので実質 12 題です。内容にもよりますが、複数解物はツイン（組局）と同様、求めるべき解の数で計上します。

今回登場する作者は神無太郎氏、占魚亭氏、高坂研氏、変寝夢氏、はなさかしろう氏、たくぼん氏、上田吉一氏の 7 名。調整の結果、既投稿作のうち、高坂研氏の 2 題は次回に繰り越しとなりました。ご了承ください。

119-1 及び 119-2 は神無太郎氏の点鏡作品。前回のツインと同時に投稿されたものですが、手順はかなり異なります。自玉を何に変身させるかを考えて解くと早く解けるかもしれません。

119-3 は作者の占魚亭氏曰く「ニッチ路線」の作品。Koko（本来はウムラウト付きの Kōko と表記するそうですが、便宜的に Koko とします）という、周囲に駒のあるマスのみに着手できるルールと、PWC を組み合わせ、更には持駒に中立駒の飛が使われています。本作品展での Koko の登場は最初が第 39 回、直近が第 75 回以来なので、初めて解く人も多いでしょう。しかし第 53 回 WFP 作品展では PWC と Koko を組み合わせた作品 (WFP53B-2、変寝夢氏作、Koko-PWC 協力詰 11 手) も発表されており、前例は皆無ではありません。なお PWC で取られた玉は復活しない ことに注意してください。Koko では玉を取った後、周囲に駒がない場合、それは王手とみなされません。PWC と組み合わせた場合でも、普通なら問題なく王手と言える手が、Koko でもちゃんと王手になっているか確認する必要があります。

119-4 は前回に続き高坂研氏の透明駒作品。ルール設定とその枚数から、透明駒が受方玉であることは確定。問題はその居場所ですが、協力自玉詰に慣れた人なら、ごく常識的な詰上りを想定すれば一発で分かると思います。

119-5 及び 119-6 は変寝夢氏の作品。まず 119-

5 は駒を取るときと取らないときで動きが違う Marine Piece の一種である Siren（汝と表記）を使った作品です。この駒は 102-14 で登場しているので、当時の出題時の説明や、結果稿を参考にしてください。

119-6 は WFP 作品展初となる「全 Andernach」。フェアリーチェスの「Super Andernach」に相当するルールで、玉の着手と打以外のすべての着手で、駒の所属が変わりません。「Andernach」を「取転」、「AntiAndernach」を「不取転」とすれば「全 Andernach」は「全転」と覚えると良いと思います。

119-7 及び 119-8 は前回の続編。はなさかしろう氏の「All-in-Shogi」の推理将棋です。「相手の駒を動かせる」「直前の局面に戻す手を禁じる」という All-in-Shogi のルールが適用されるので、普通の推理将棋とはかなり違う感覚が要求されます。

119-9 はたくぼん氏の作品。特殊な条件が何も付いてない純粋な協力詰ですが、難解だと思います。腰を据えて取り組んでください。

119-10 及び 119-11 は、上田吉一氏の作品。使われているフェアリー駒は Grasshopper と Locust。今回の作品展では 119-5 も含め 3 種類のホッパー系のフェアリー駒が登場します。跳躍台となる駒を取らない Grasshopper、跳躍台となる駒を取る Locust、跳躍以外でも動ける Siren。それぞれ微妙に仕様が異なるので、混同しないよう注意してください。なお、119-10 は 2 解を求める問題です。なるべく両方の解をお答えください。

解答要項

第 118 回分解答締切:2020 年 3 月 15 日(日)

第 119 回分解答締切:2020 年 4 月 15 日(水)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済み

なら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【二玉詰】(または【多玉詰】)

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→初出；第 41 回 WFP 作品展 (WFP45 号)

【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→本誌初出:第 108 回 WFP 作品展(WFP127 号)

【協力白玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手では詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。

・成駒と生駒は別種の駒として区別する。

また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132 号「駒全マネ禁詰の紹介」

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない

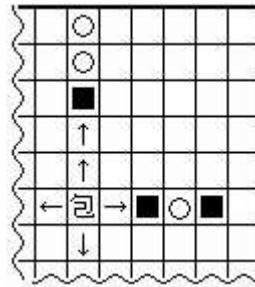
2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

3) 白玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

【Pao】(包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。
○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

(補足)

・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。

・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。

・成ることはできない。

・2 つ以上の駒は飛び越せない。

【推理将棋】

将棋についての会話(または条件)をヒントに将棋の指し手を復元する。

【All-in-推理 Shogi】

推理将棋と All-In-Shogi を組み合わせたもの。将棋の初期局面から条件に合う手順を求める点では推理将棋と同じだが、合法手や詰・不詰の判定に All-In-Shogi が適用される。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。

2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。

3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

4) 取られた玉は復元しないものとする。

【Koko】

着手は、そのまわりの 8 マスに何らかの駒が存在するような地点のみ有効。

(補足)

- ・王手にもこの条件は適用される。
- 玉を取っても周りに駒がない場合、王手とみなされない。

→参照：WFP42号「Kokoについて」

【中立駒】(「𠩺」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

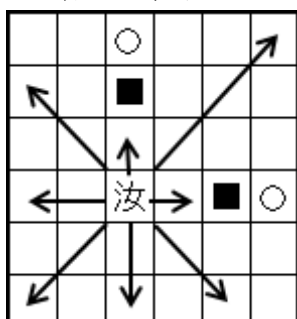
- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【Siren】(汝)

フェアリーチェスの Siren (汝)。

駒を取らないときは Queen の動き。駒を取るときは Locust の動き (Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。
 ■は敵駒。これを取って○に行く。
 ■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

★初出：第102回 WFP 作品展 (WFP119号)

【全 AntiAndernach】

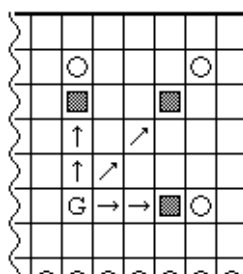
玉以外の駒は、盤上の移動を行うと、着手後に相手の駒となる。

(補足)

- ・細則は Andernach と同様に「駒取り」を「盤上の移動」に読み替える。
- 1) 盤上の移動で二歩になる場合、相手の駒にならない。
 - 2) 相手の駒になるのは成生を選択後。
 - 3) 盤上の移動では、相手陣二段目への桂の不成、一段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(○が G の利き)

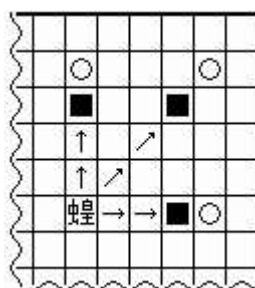
(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【Locust】(蝗)

フェアリーチェスの Locust (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



(○が蝗の利き。

■は敵駒。これを取って○に移動する。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりすると跳べない。)

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

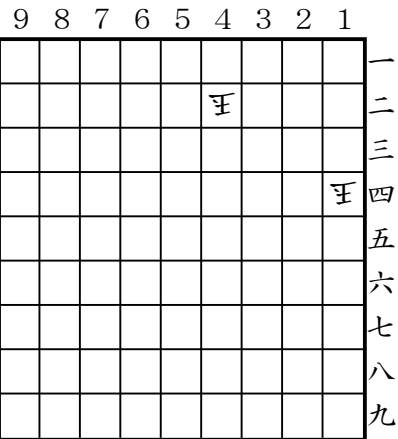
【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

<第 118 回>解答締切:2020 年 3 月 15 日(日)

■ 118-1 占魚亭氏作

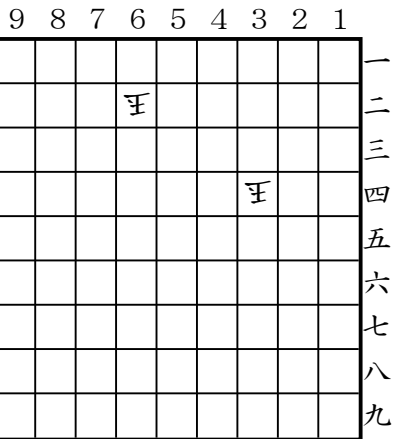
点鏡二玉協力詰 5手



持駒 角

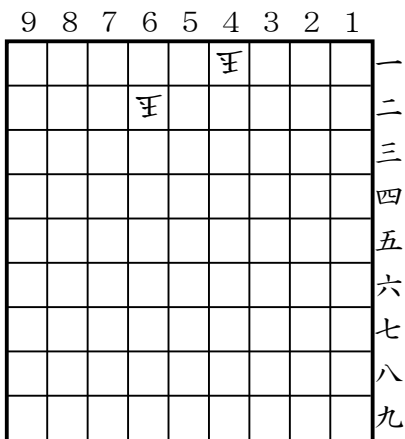
■ 118-2 占魚亭氏作

a) 点鏡二玉協力詰 5手



持駒 金2

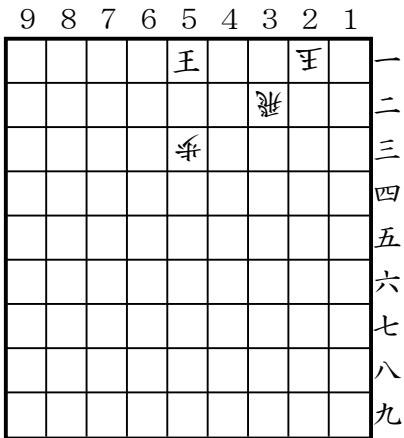
b) 点鏡二玉協力詰 5手



持駒 金2

■ 118-3 高坂研氏作

協力自玉詰 4手

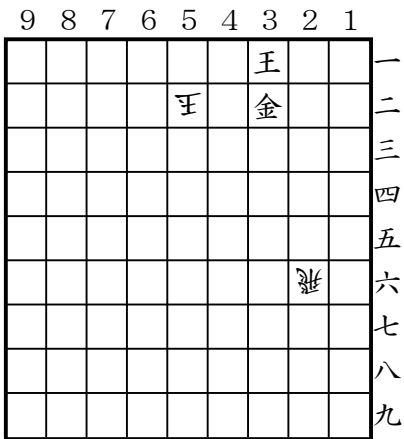


持駒 金2

※透明駒:攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 118-4 高坂研氏作

協力自玉詰 4手

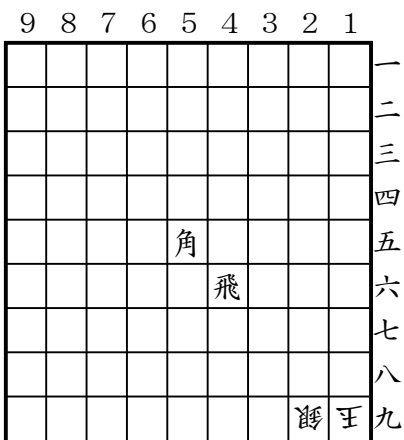


持駒 角

※透明駒:攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 118-5 高坂研氏作

協力自玉詰 4手



持駒 金

※透明駒:攻方 1 枚、受方 0 枚

■ 118-6 神無太郎氏作

a) 点鏡協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							王		四
									五
									六
									七
									八
			王						九

持駒 角

b) 点鏡協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							王		四
									五
									六
									七
									八
								王	九

持駒 角

■ 118-7 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力白玉詰 66手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
							龍		五
									六
									七
糸								王	八
王									九

持駒 歩17

■ 118-8 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

		王						王	一
									二
									三
								飛	四
									五
									六
									七
									八
		王						飛	九
								包	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※包:Pao

■ 118-9 はなさかしろう氏作

All-in-推理 Shogi 問 1

[条件]

①6手で詰み

②5筋に着手した

■ 118-10 はなさかしろう氏作

All-in-推理 Shogi 問 2

[条件]

①8手で詰み

②すべての着手は通常将棋ルール²⁾の合法手だった

③飛の手に対して成の手で応じたことがあった

④ひとつの枡の斜め隣への着手が先後通算3
手続いたことがあった



<第 119 回>解答締切:2020 年 4 月 15 日(水)

■ 119-1 神無太郎氏作

点鏡協力白玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
						王		二
								三
			王					四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 角

■ 119-2 神無太郎氏作

点鏡協力白玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
			王					三
								四
								五
								六
								七
								八
							王	九

持駒 角

■ 119-3 占魚亭氏作

PWC-Koko協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
			歩	王		桂		三
				糸				四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 n飛

※持駒の飛は中立駒

■ 119-4 高坂研氏作

協力白玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
					王		王	三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 飛角

※透明駒:攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 119-5 変寝夢氏作

協力白玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
							王	二
						王		三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし

※汝:Siren

■ 119-6 変寝夢氏作

全Andernach協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 角

■ 119-7 はなさかしろう氏作

All-in-推理 Shogi 問 3

[条件]

- ①7手で詰み
- ②後手の着手は全て先手陣内の駒を先手陣外に出す手

■ 119-8 はなさかしろう氏作

All-in-推理 Shogi 問 4

[条件]

- ①7手で詰み
- ②7筋への先手の2度目の着手は72金

■ 119-9 たくぼん氏作

協力詰 107手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
歩	金	桂	歩	銀						四
金	香	桂	金	飛	銀	銀				五
銀			香	香	香	金				六
	桂		歩	王	歩	桂			馬	七
	ス	ス	ス				飛			八
	ス		ス	ス		王				九

持駒 角

■ 119-10 上田吉一氏作

協力自玉スタイルメイト 10手 (2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
馬										二
									金	三
										四
										五
										六
										七
										八
				王						九

持駒 G

※G:Grasshopper

■ 119-11 上田吉一氏作

協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
						王				七
馬										八
						王				九

持駒 銀4

※蝗:Locust

以上



「第 52 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 52 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「**ルールの回避**」です。

フェアリーはそのルール独自の着手を強調することが多いですが、逆にそのルール独自の着手を防ぐ狙いを含む作品を募集します。

例)

- ・「強欲」で駒を取らずに済む着手を選ぶ
- ・「対面」で性能変化を回避する
- ・「キルケ」で駒の復活を防ぐ

このように「与えられたルール独自の効果が発動することを回避する」狙いを持った天邪鬼な作品をお寄せください。

また、1 題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。こちらはお題とは関係なくとも構いませんが、協力詰なのに協力していないように見える作品であれば優先して採用します。

作品要件	ルールの回避
募集締切	2020 年 4 月 19 日（日）
募集作品数	4 + 1（協力詰枠）
送り先	神無七郎（k7ro.ts@gmail.com） 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可。 採否は 4 月 26 日までに通知します。



推理将棋第125回出題

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第125回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2020年3月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第125回解答」でお願いします。

推理将棋第125回出題 担当 Pontamon

年賀推理は手数がかかったのですが、今月は通常問題に戻ります。123回の結果稿以降に作品投稿があり、4月を以っての休載の危機は回避できそうです。出題作の難易度はヒントで調整することになるかもしれません。

初級は担当からの9手詰です。3の倍数でアホになるのではなく駒が成ります。

中級の11手詰はけいたんさんからで2012年6月の56-2以来の登場。詰み場所はどこ？

上級はミニベロさんからの12手詰。最終手が8マス移動の3題目になります。

■本出題

125-1 初級 Pontamon 作

3の倍数の駒成 9手

6手目に駒成できる後手の駒と言えば...

125-2 中級 けいたん作

初手と最終手だけ違う駒 11手

先後とも同じ駒の着手が4回ずつ。金の入手方法を推理しましょう。

125-3 上級 ミニベロ作

長い話 12手

成る手なしの条件で最終手が8マス移動で詰ませることができる駒は何でしょう。

125-1 初級 Pontamon 作

3の倍数の駒成 9手

「9手で詰んだ対局は、3の倍数の手番は異なる段での駒成だった」

「聞いた聞いた。銀の着手は無かったらしいね」
(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・3手目、6手目、9手目は異なる段での駒成

・銀の着手は無かった

125-2 中級 けいたん 作

初手と最終手だけ違う駒 11手

「さっきの将棋11手で詰んだんだって」

「先手は初手と最終手以外同じ駒しか動かしていないな」

「後手は2手目以外同じ駒しか動かしていないね」

「後手は5筋の手を2回、6筋の手を3回指したな」

「とどめは歩頭の金打ちだったね」

(条件)

- ・11手で詰み
- ・先手は初手と最終手以外同じ駒しか動かしていない
- ・後手は2手目以外同じ駒しか動かしていない
- ・後手は5筋の手を2回、6筋の手を3回指した
- ・とどめは歩頭の金打ちだった

125-3 上級 ミニベロ 作

長い話 12手

「長い話をしよう。3手目に4筋の手、12手目に8マス移動して終わりじゃ」

「ええっ、もう終わりなの」

「そう、成る手もない。どうじゃ、長い話じゃろう」

「行こっ！」

(条件)

- ・12手目の8マス移動する手で詰み。
- ・3手目は4筋
- ・成る手なし

Fairy of the Forest #62 出題

- 2019年12月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2020年02月15日：投稿締切
- 2020年02月20日：出題
- 2020年03月15日：解答締切
- 2020年03月20日：結果発表

■ 出題

相変わらず投稿作僅少です。作者も前回と同じ顔ぶれとなってしまいました。いずれも手数数の割に考えやすいはずなので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。02は受方持駒制限にご注意ください。

(解答先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 62-01 たくぼん 協力詰 43手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一					ス	香	香		飛	
二						香	ス	香	王	
三					香	香	ス	香	香	
四							香	香	香	
五										
六										
七										
八										
九										

持駒 金2銀4桂3歩3

■ 62-02 たくぼん 協力詰 75手

受方の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四	銀	香	香	香	香	香	香		香	
五	香	歩								
六	歩								飛	
七										
八	王									
九	ス	香	香						玉	

持駒 歩8

■ 62-03 小林看空 協力詰 119手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一		香	香							
二				銀						
三	香	馬	金							
四			香							
五	香		金	歩						
六			と	と	桂	桂	桂	桂		
七				と	歩	銀	銀	歩		
八		玉	香	と	香	歩	歩	香		
九	香	香			王	角	金			

持駒 なし

第 117 回 WFP 作品展の結果を報告します。

今回の出題は全 14 題。解答者数は 5 名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

〔第 117 回 WFP 作品展成績〕（敬称略）

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
たくぼん	○	-	-	○	○	○	-	○	-	○	○	○	○	○	10
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	10
一乗谷酔象	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	6
はなさかしろう	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	6
変寝夢	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	○	-	5

全体の解答数も少ないですが、特に前半 7 題に無解が目立ち、多くの解答者が Imitator 絡みの作品を回避したことが分かります。残念ながら 117-2 と 117-3 には作者以外の解答者が出ませんでした。この前半 7 題に挑戦したのは、たくぼん氏と占魚亭氏のお二人だけ。解答者が少ない中、貴重な活躍だったと思います。

■ 117-1 占魚亭氏作（正解 2 名）※実質 1 名！

協力自玉詰 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王						一
										二
										三
										四
										五
						■				六
										七
										八
				王						九

持駒 n 角

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

• Imitator（■または I）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判

定にも適用される。

（補足）

- 駒を打ったときは動かない。
- Imitator は元の駒と同時に動く
→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

• 中立駒（「區」あるいは「n 駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が

終了し、相手側が着手する前に行く。
→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【解答】

15n 角 24n 飛 27n 飛[139] 48n 角
58 王[138] 59n 角成[149] まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
									二
									三
								角	四
									五
							飛		六
				王					七
				馬	■				八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

そこそこ綺麗にできたかなと。

【解説】

ほぼ左右対称の初形。

持駒がただの角ではなく、中立角であることを考えると、自玉に睨みを利かせる 15n 角が有力に見えます。Imitator の位置の関係で、反対側の 95n 角は王手になりません。

初手 15n 角と指した後は、この王手の無効化・有効化を繰り返す Imitator 作品らしい展開が始まります。今回出題された他の Imitator 作品でも、最初から最後まで王手を掛ける駒は同じで、関係なさそうな場所で駒が動き回る作品がいくつかあるので、どの作がそのパターンに当てはまっているか確認してみてください。

本局は 15n 角の王手に対し、中立飛で合駒し、これを直後に動かします。合駒を直後に動かすのは中立駒ならではの手順ですが、この開き王手はもちろん限定移動になっています。

限定移動の意味は 2 つ。一つは Imitator をブロックして詰上りの 59n 馬を動かす受けを防ぐ意味。もう一つは玉の七段目への逃走を防止する意味です。後者の意味付けは普通ですね。

見えにくいのは 4 手目 48n 角。

直接的な合駒ではなく、Imitator に対する壁を発生させる受けなので、なかなか候補に上がって来ない手です。一般に自玉周辺に駒を発生

させる手は協力自玉詰では有効ですが、Imitator に慣れていないと、この手が感覚的に浮かぶことはないでしょう。

5 手目は 58 王で再び 15n 角の利きを有効化。返し技の 59n 角成で見事詰上ります。58 王は自玉をわざわざ最下段から外す手なので指しにくいのですが、次の 59n 角成で Imitator が最下段に来るので問題ありません。Imitator 作品では自玉の位置より、Imitator の位置の方が重要です。

改めて手順を見ると「Imitator は盤端に」という格言に忠実な手順。その Imitator を上手く壁として使い、詰めにくい中立駒で詰める作品でした。自玉に睨みを利かせるかのような 15n 角の初手も、実は 24n 飛を可能にするための限定打であり、自玉への利きは関係なかったことが分かります。Imitator に中立駒が加わると、直感だけで解くのはほとんど不可能なので、解答者が少ないのもやむを得ないところです。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

5 8 玉が王手になるのですね。

たくぼんさん

序の 4 手目に気付いて道が開けた。

それにしても難しい。

☆作者以外の唯一の正解者は、たくぼん氏。

他の解答者が避ける難問にも果敢に挑む姿勢には頭が下がります。



■ 117-2 占魚亭氏作（正解1名） ※実質正解者なし

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				王				一
								二
						■		三
								四
								五
								六
								七
								八
				王				九

持駒 n飛

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【解答】

11n 飛 73n 角 48 王 [I22] 21n 角

98n 角生 [I99] 88n 飛 まで 6手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				王				飛
								二
		角						三
								四
								五
								六
								七
角	飛			王				八
■								九

持駒 なし

【作者のコメント】

n 角の大移動が主眼です。

【解説】

本局もほぼ左右対称形。前局が中立角の遠打だったのに対し、本局は中立飛の遠打から始まります。

ところが、本局は前局よりも更に難しい手を読まねばなりません。

2手目に素直に合駒するのではなく、Imitatorを利用した壁駒で受けるのです。しかも、それが73n角！ 王手を防ぐどころか、更に自玉に王手を加えるような手ですが、Imitatorの働きで、確かにこれは受けになっています。

わざわざ自玉を睨むような中立角で受けた意味は5手目に判明します。これが角でないと5手目98角生が王手にならないのです。ワンクッション置かないと効果が分からない手なので、この手の発見はかなり困難でしょう。

攻方は3手目48王として11n飛の利きを有効化しますが、これに対して今度こそ合駒をします。合駒は21n角。この目的は、角を大移動させてImitatorを盤隅に持ってくることです。盤端のImitatorは便利ですが、盤隅のImitatorはもっと便利です。一見すると5手目98n角生は開き王手に見えますが、11n飛の利きはブロックされたままであり、王手は73n角が掛けています。ここで2手目の伏線が回収されました。

最終手の88n飛は73n角の王手を防ぐ手。Imitatorが盤隅にあり、縦の移動は98n角で防がれているため、これで自玉は詰んでいます。5手目が不成だったのは、成るとこの88n飛を取る受けがあるためだったのです。

詰上りを見ると、大駒4枚揃い踏み。手順も伏線的な壁駒打ちや、合駒の直後の大移動などがあり、大変濃い内容です。本局は作者以外の正解者なしになりましたが、この結果もやむを得ないと思わせる作品です。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

21n角のための11n飛なのか。

たくぼんさん（※無解）

全く筋が見えません。



■ 117-3 占魚亭氏作（正解 1 名） ※実質正解者なし

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				王				
					■			
				王				

持駒 n角

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【解答】

86n 角 77n 飛 57n 飛[I25] 26n 香
77n 角[I16] 29n 香成[I19] まで 6手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				王				
		角	飛					
				王		角	■	

持駒 なし

【作者のコメント】

「Imitator を隅に」の方針で行くことに気がつけばやさしい……かも。

【解説】

本局もまた詰上りの想定が困難な難解作。

その原因は、まるで両王手のような詰上り。しかも、両王手を掛けられているのは攻方玉ではなく、受方玉に見えてしまいます。もちろん受方玉への王手は Imitator ですべてブロックされており、詰んでいるのは攻方玉です。

攻方玉を詰める駒は 2 手目に合駒として発生させた中立飛。直後にこれを 5 筋に移動させ、自玉に睨みを利かせます。この時点では中立飛

の利きは Imitator により自玉に届かず、受方へのみ利いています。

4 手目はその王手を受ける 26n 香。後にこれを動かして 57n 飛の攻方玉への利きを有効化する含みを持った伏線的な応手です。

5 手目 77n 角で Imitator の位置をずらすことにより、攻方玉への逆王手の準備は完了。中立香を最下段に成り込んで、逆王手で詰上げます。

もちろん最終手の香成は九段目でなくてはいけません。八段目だと 95n 角[I36]という受けが生じてしまいます。また、「成」も必須です。不成だと 21~26 の任意の場所に中立香を動かす受けが残ります。

もし 4 手目が香でなく飛だと、この最終手が反則で指せず、指せたとしても元の位置に戻す受けがあります。二重の意味で香である必要があったわけですね。強い飛より弱い香の方が役に立つ……これも詰将棋の面白さです。

なお、初手 86n 角はもちろん限定打。95n 角は王手になりません。どちらかと言えば右側から王手したくなる (Imitator がある場合は、Imitator 付近の駒密度を高くした方が、Imitator によるブロック効果が出やすい) 形ですが、それではこの手数で Imitator を盤隅に運ぶことができません。これも、本局に作者以外の正解者が出なかった要因なのかもしれません。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

香という駒の都合が良さがよく表れている。

たくぼんさん (※無解)

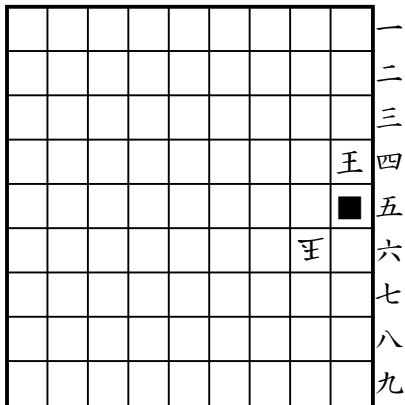
これもダメ。



■ 117-4 神無太郎氏作（正解 2 名）

協力自玉詰 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 銀

※■:Imitator

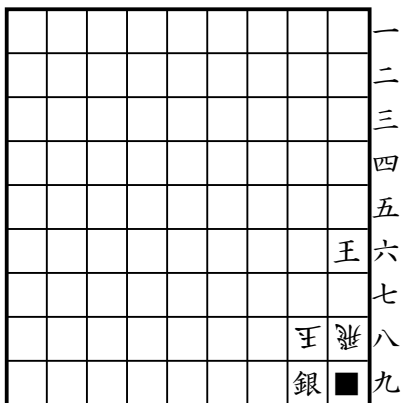
【解答】

15 王[I16] 27 玉[I17] 16 王[I18] 28 玉[I19]

29 銀 18 飛 まで 6 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

【解説】

Imitator は不可能を可能にします。本局で可能になるのは、玉による直接王手。

玉はどの方向へも均等に利く駒なので、玉で王手すると、通常は自玉に王手を掛ける反則になります。しかし、Imitator を使えば、一方の玉が他方の玉に一方向的に王手を掛ける状態が作り出せます。

本局はその性質を利用して、玉での王手を繰り返すわけですが、目的は自玉を詰めることなので、王手自体は手段に過ぎません。

王手を繰り返した本当の目的は Imitator を盤隅へ移動させること。Imitator が動けなくなれば自玉も動けなくなるので、飛の一打で簡単に自玉が詰むのです。

最終手 18 飛はもちろん銀では取れません。盤外に Imitator が出るような手は禁じられています。盤隅の Imitator の威力は凄いですね。

今回の神無太郎氏の作品群では、このように玉が大活躍します。本局は双方の玉が協力して Imitator を盤隅に運ぶことが目的でしたが、他の作品はどんな活躍を見せてくれるのでしょうか？

【短評】

変寝夢さん（※無解）

持駒がないと間を開けた影挟みが使えぬ訳か。

たくぼんさん

王と玉の鬼ごっこ。面白い筋があるものです。

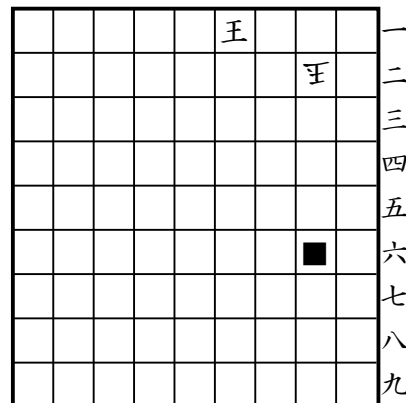
占魚亭さん

お蔵入りにしたものと同一図だったので、すぐ見えました。

■ 117-5 神無太郎氏作（正解 2 名）

協力自玉詰 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛

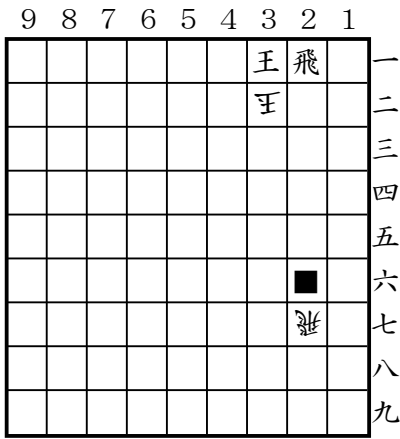
※■:Imitator

【解答】

21 飛 27 飛 32 王[I17] 23 玉[I18]

31 王[I17] 32 玉[I26] まで 6 手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

本局は「玉で王手」から一步進めた、「玉で玉を詰める」作品です。

順番に確かめてみましょう。3手目は王による王手ではありません。Imitatorを動かして、2手目にブロックされた飛の王手を有効化する手です。4手目も逆王手ではありません。玉同士は密着していますが、Imitatorが互いの利きを無効化しています。5手目の31王も21飛の利きを有効化した間接王手。6手目32玉が本当の「玉による王手」。32玉が31王に一方的に王手を掛けている状態になっています。

この詰上りを見れば、2手目に打った27の壁駒が飛である理由が分かります。これが飛でないと、最終手に対し「22王」とする受けがあるわけですね。

双方の玉の大活躍、堪能できましたでしょうか？

【短評】

変寝夢さん (※無解)

玉が imitator を操られているのかな、それとも逆なのかなあ。

たくぼんさん

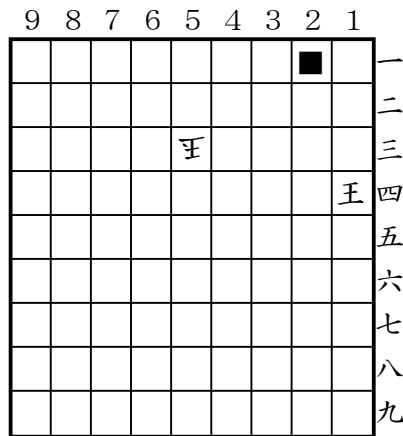
玉をぶつける際に何回も利きの確認が必要。これが頭を悩ます要因。

占魚亭さん

Imitator を戻す構想でしたか。

■ 117-6 神無太郎氏作 (正解2名)

協力白玉詰6手



持駒 飛

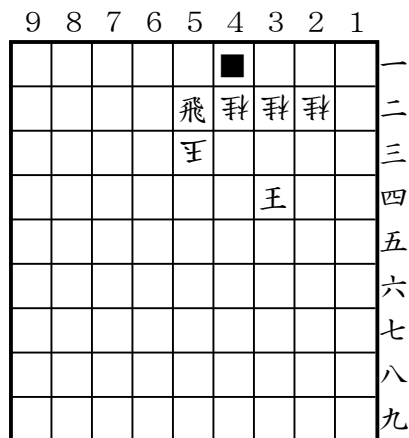
※■:Imitator

【解答】

52 飛 22 桂 24 王[I31] 32 桂

34 王[I41] 42 桂 まで 6手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

双裸玉+Imitatorの簡素形から、意外な壁駒連打の趣向が飛び出します。

仕組みはImitator作品の典型的パターン。初手の王手駒と玉が不動のまま、壁駒発生と王手の有効化を繰り返すパターンです。今回の作品展では117-1、117-5、117-6、117-7がこのパターンで構成されています。

本局は初手52飛の限定打に対し、この利きをブロックする桂打と王手を有効化する白玉の移動が繰り返されます。5手目34王は22桂の利きに飛び込む手に見えますが、53玉の配置がImitatorの壁になっており、この手を可能にしています。つまり詰上りで二段目に並んでいる3枚の桂のうち、詰上りに直接関与しているの

は、32 桂と 42 桂の 2 枚です。

では、22 桂は無関係なのかというと、そうではありません。これが他の駒、例えば 22 歩だと、最終手 42 桂に対し、同飛[I31]という応手が生じてしまいます。つまり、22 桂は攻方玉を人質にして 52 飛を動けなくする「ピン止め」効果を狙った手だったのです。「飛で桂をピン止めする」のは普通ですが、逆に「桂で飛をピン止める」とは驚きですね。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

まさかここで趣向が入るとは思わなかった。

たくぼんさん

駒を動かしているうちにこの筋を見つけました。ユニークな動きが面白い。

占魚亭さん

「氾濫」3-4 系統の作品。面白かったです。

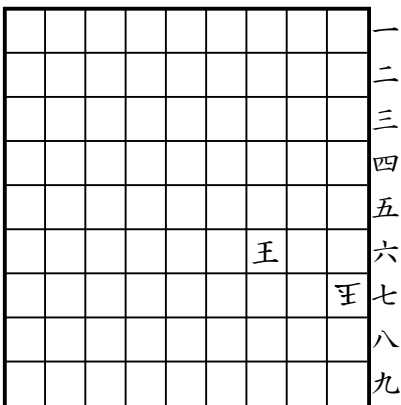
☆これは「氾濫 34」第 2 番のことでしょうか。詰上りが綺麗なだけでなく、「打順調整」の構想性もある作品なので、ぜひご鑑賞を。

【参考】「第 34 回神無一族の氾濫」②

神無太郎 作

安南ばか詰 11 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 桂4

(詰将棋パラダイス, 2011年6月)

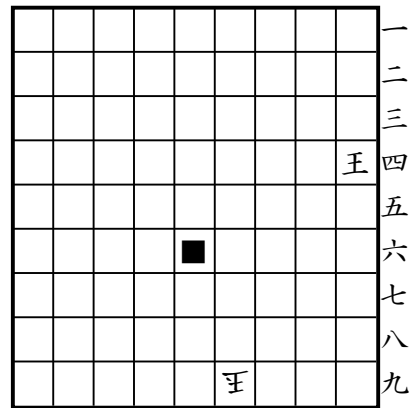
(解答は当時の結果稿を参照してください。)

http://k7ro.sakura.ne.jp/overflow/hr34_r.pdf)

■ 117-7 神無太郎氏作 (正解 1 名!)

協力自玉スタイルメイト 8 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 金

※■:Imitator

【ルール】

• 協力自玉スタイルメイト

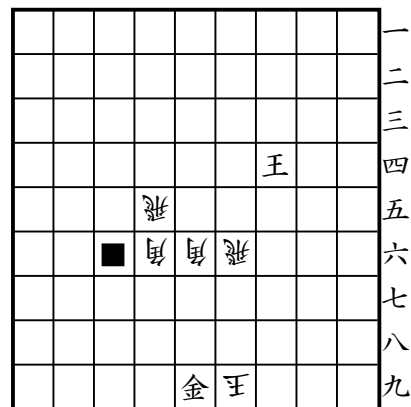
先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト (王手は掛かっていないが合法手のない状態) にする。

【解答】

59 金 46 飛 24 王[I66] 56 角 33 王[I75] 65 飛 34 王[I76] 66 角 まで 8 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

【解説】

本局は目指すべき目的が「詰」から「スタイルメイト」に変わりました。持駒は金 1 枚。

となると、金で王手を掛け、壁駒打と自玉の移動で王手の無効化・有効化を繰り返しながら、自玉の包囲網を築くしかありません。

考慮すべきは包囲網の形成だけではありません。次の 2 つの問題の解決が必要です。

- (1) 初手の金はどこから打つか
 (2) 金をどうやって動けなくするか

(1)は Imitator と攻方玉の位置関係から絞り込みが可能です。自玉が Imitator の右側にいるので、壁駒も Imitator の右側に発生させる可能性が高く、受方玉の左側から王手を掛ける 59 金にヤマを張ることができます。

問題は(2)。この解決法に「金を取る」という最も素朴な手段を想定してしまうと、本局はいくら考えても解けません。

正しい解決法は前局と同様「ピン止め」効果を使うこと。具体的には 4 手目 56 角がそのための一手です。最終形で 56 角の利きは Imitator の働きでブロックされていて、自玉には利いていません。しかし、59 金が動くとその利きが開放され、自玉への王手となってしまいます。

玉の包囲網を形成する大駒のかたまりの中で、1 枚だけ異彩を放っている 56 角。これが金を動けなくする最も重要な駒だったのです。

余分な駒を消さずに残すスタイルメイトは、特殊な手筋を要求されることが多く、そのルールの特徴を熟知していないと、なかなか解くことはできません。本局は、玉が動き回る今回の神無太郎氏のシリーズの中でも、最も難解な作品だと思います。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

簡単に飛角四枚を出しているような錯覚をしてしまいます。

たくぼんさん (※無解)

解ける気がしない。ヒントが欲しい。

占魚亭さん

大駒を打って受けていただけなのに、最終形の予想が立たず結構考えました。

☆本局唯一の正解者は占魚亭氏。解図力を身に付ける最も良い方法は、そのルールで作品を作ることなのかもしれません。

■ 117-8 高坂研氏作 (正解 4 名)

協力詰 1 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
									六	
							角	王	歩	七
								銀		八
							歩	王		九

持駒 なし

※透明駒：攻方 1 枚、受方 0 枚
 逆算可能であることを仮定

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

• 透明駒

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

※本作は逆算を続けても、どこかで行き詰まらないことを条件とする

【解答】

— X まで 1 手

(詰上り)

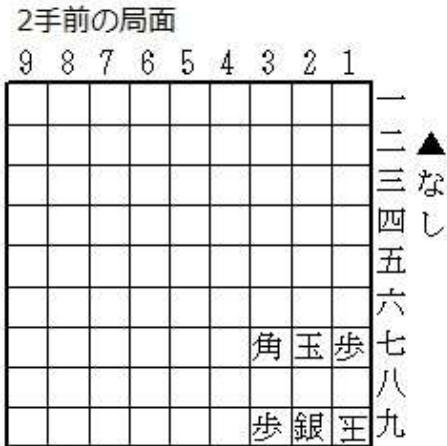
9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
									六	
							角	王	歩	七
							X	銀	X	八
							歩	王	X	九

持駒 なし

※X=18銀・19金・19飛・38銀のいずれか

【作者の解説及びコメント】

作意だけ見ると「透明駒が角だったら1手で詰まないのでは？」と思われるかもしれないが、それは実際には起こりえないことが簡単なレトロ解析で示される。



(28には玉方透明駒がある)

この2手前の局面は上図のようなものであり、ここから28銀と透明駒を取って出題図に至った訳だが、この2手前の局面において28に角または馬がいる図は不可能局面！よって、作意で確かに詰んでいることが示された。

必要ならば、出題時にレトロを用いる図である旨を断ってもらっても構いません。もっとも、明示しなくとも解答者には作者名と出題形式からバレバレな気もしますが(笑)。

【解説】

透明駒が角なら詰まない詰手順。角以外なら何でも詰みますが、角だと合駒されて「すかし詰」だと主張されます。すかし詰は協力詰では詰みとはみなされないの、透明駒が角である可能性を排除しなければいけません。

本局はそのために初形から逆算を行い、「角の可能性はない」ことを証明します。チェスの「レトロ解析」に相当する作業ですね。

チェスプロブレムでは出題図が実戦初形に戻せることが条件の一つとなっています。フェアリー駒がある場合ですら、「フェアリー駒はPawnが成ったもの」とみなして、実戦初形に戻せることを要請する場合があります。

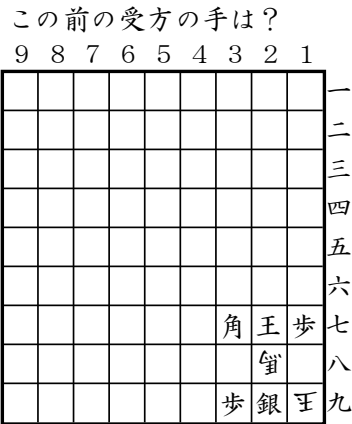
では、詰将棋での透明駒はどうでしょう？

将棋の実戦初形に透明駒はないですし、駒が敵陣に入ると透明駒に成れるという規定もありません。出題時に逆算の条件を「実戦初形に逆算できること」ではなく「逆算を続けてもどこかで行き詰まらないこと」という表現にしたのはそのためです。何だかお茶を濁したような表

現ですが、とりあえずその前提で本局の解析を行きましょう。

初形で王手が掛かっているのは変なので、28に透明駒があると分かります(本作品展では特に注記がない場合、初形は必ず攻方手番です)。

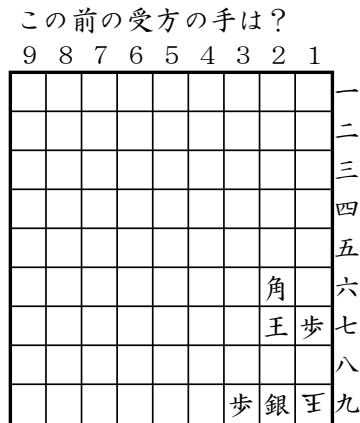
まずは、28の透明駒が馬と仮定して、初形から1手遡ってみましょう。



持駒 なし

馬は打てないですし、盤上(18や38)からやってきたとしても、攻方は王手放置の反則をしていることとなります。従って逆算はここで行き止まりです。

28馬の代わりに28角ならまだ逆算できます。馬と違って角は打てるからです。しかし、更にもう2手逆算すると、そこで行き詰まっています。



持駒 なし

上図の26角はあくまで一例で、15・48・59や、持駒になっていても良いのですが、いずれにしてもこの前の受方の手がありません。盤上に受方の駒は玉一枚しかありませんが、玉の周りの空きマスのどこに玉を戻しても「王手放置」の局面になってしまうのです。

これで出題図の透明駒が馬・角である可能性

は排除されました。作意成立ですね。

念のため、透明駒が飛・金・銀の可能性がちゃんと残っていること(本局が不詰でないこと)も確認しておきましょう。

透明駒が飛・金・銀の場合、上図で横から 28 へ到達できる(銀は成銀にして 38 から 28 に行けば良い)ので、逆算は行き詰まりません。後は 29 銀を持駒に戻したりして、受方玉の可動域を広げていけば逆算に困ることはありません。よって、不詰でないことも証明されました。

以上のように本局は 4 手逆算し、5 手目の逆算ができないことを確かめて、1 手詰が成立することを証明する作品でした。たった 1 手でこんなに苦勞するとは、透明駒は奥が深いですね。

逆算パートがもっと長かったり、順算パートがもっと難しかったりすると無解者続出となったでしょうから、「透明駒&レトロ解析」のお披露目にちょうど良い問題だったと思います。

ここでもう一度、透明駒とレトロ解析を組み合わせる話に戻しましょう。

実戦初形に透明駒はないので、逆算の前提条件をどう考えるべきか、筆者も自分なりに 2 つの解釈を考え、作者に確認してみました。

解釈 1 実戦初形でいくつかの駒が透明駒化し、透明性を失わないまま出題図に至った

解釈 2 実戦初形から出題図直前に至り、そこでいくつかの駒が透明駒化して出題図になった

作者の回答は以下の通りでした。

「透明化が起こった時期が異なることにより、逆算可能性の証明に違いが出るのではないか」とのご指摘だと思いますが、これはまだ私はそういう作品を見たことがないので、一寸分かりません。

まだ作られていないだけで、そういう図はあるかもしれませんね。

ということで、少なくとも本局が投稿された時点では、決まっていなかったようです。

ただ、変寝夢氏から指摘があったのですが、昨年の詰将棋パラダイス 12 月号の「透明駒 10 周年記念創作コンクール作品展」では、「解釈 1」では矛盾が起きる作品(第 1 番)が出題されて

いました。従って、「解釈 2」が有力になる可能性はありそうです。最終的にどのようなルール解釈が定着するかは分かりませんが、今後の動向を注視したいと思います。

出題時にも触れましたが、本作品展では特に注釈がない限り出題図が以下の条件を満たすことを仮定します。

- 1) 攻方手番であること
- 2) 標準の駒種、駒数であること
- 3) 二歩・行き所のない駒がないこと
- 4) 相手番の玉に王手が掛かっていないこと

これに当てはまらない場合や、追加の条件を要求する場合は、それが分かるようにして出題します。逆に言えば、本作品展では逆算不能な図も受け付けます。普通詰将棋の例では、この作が有名ですね。

〔参考〕逆算不能な詰将棋の例

愛上夫 作
詰将棋 3 手

			角	皇						一
				皇						二
						銀	銀			三
					龍			將		四
				科			王			五
					龍					六
					王			銀		七
					ス					八
			角							九

持駒 なし
(近代将棋,1984年11月)

56 王 47 桂成 55 龍上 まで 3 手

上図は「桂」と「と金」で攻方玉に王手が掛かっているので、逆算はできません。でも、ここから詰将棋として解くことはできます。

セル・オートマトンの用語では、このような逆算不能の配置は「エデンの園配置」と呼ばれます。もちろん、そのような配置を禁止する習慣はありません。

本作品展でも「エデンの園配置」は禁止せず、それを禁止する場合は、それを追加条件として明示して出題したいと思います。

【短評】

はなさかしろうさん

攻方 17 歩、27 王 / 受方 39 玉 / 攻方持駒 角銀歩 / 0+1、受先 の局面から、29 玉、39 歩、19 玉、29 銀、-X、37 角、-X、28 同銀、29 玉 と進んで図に至ったと考えられるので、X は小駒か飛。そこで-X ですが、この手が王手なので、19 飛 or 金、18 or 38 銀のいずれかの手だった、ということかと思いますが…

逆算可能から X が角ではありえないことが導かれる、ということでしょうか。自信ありませんが手探り感も含めて面白かったです。

変寝夢さん

角だと 4 手目で手詰まりになるのかな。レトロ解析を行わないといけない作品で、逆算手順の途中で透明駒が判明する場面が生じるのはどうかと思うので（そもそも初形で透明駒が生じなくなるので）本作はそういった問題がない点ではいいと思う。

たくぼんさん

手を戻すと、19 玉 29 銀 (+何か) 28 合 (打ちか移動) 37 角 (打ちか移動) となるが、28 合は打ちだとこれ以上戻せないのどこからかの移動合いとなるが角は 38 馬からの移動となり 27 玉に王手がかかりダメなので、8 筋からの飛か、38 からの金、銀、成駒か 16.36 からの桂成となるが、同銀、29 玉から次の手が王手になるのは、18 銀、38 銀、19 飛、19 金しかなく詰みとなる。

一乗谷酔象さん

逆算可能ですね。

■ 117-9 高坂研氏作 (正解 3 名)

協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
							歩	角	王	六
										七
										八
								馬		九

持駒 なし

※透明駒：攻方 1 枚、受方 1 枚

【解答】(※確定した位置を括弧内に記述)

-X -X -X -(26)X 18 馬 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
							X		六	
							歩	角	王	七
										八
									馬	九

持駒 なし

※26Xは飛(龍)または金(成金)

【作者の解説及びコメント】

3 手目にも透明駒の着手があったことから、先手の 1、3 手目が 15 龍-26 龍であることが分かる。そうすると、4 手目迄の手順は例えば 15 龍、16 金、26 龍、同金というものであり、26 が埋まっていることになるので 5 手目 18 馬で確かに詰んでいる。

同じようでも X、16 歩、X、X、だと 26 に透明駒がいる可能性があるため、最終手を同 X と取られて逃れ。

尚、これを作ってしばらくしてから久保紀貴作(詰将棋パラダイス 698 号、かしこ 5 手)との類似に気付いたが、透明駒の連続着手の回数も違うし、ばかとかしこの違いもあるので、没

にするほどではないと判断した。

【解説】

26 が (桂以外の) 受方の駒で埋まっていれば 18 馬で詰む形。透明駒の 4 連続着手はそれを実現するための手段なのですが、棋譜をぼんやり眺めているだけだと、なぜこれで 26 が埋まるのかさっぱり分らないと思います。

まずは攻方の着手と受方の着手に分けて考えてみましょう。

攻方は初手と 3 手目に透明駒の着手をしています。攻方の透明駒は 1 枚なので、初手で受方の透明駒を入手しない限り、同じ透明駒を動かしたことになります。

受方は 2 手目と 4 手目に透明駒の着手をしています。受方の透明駒は 1 枚なので、2 手目で攻方の透明駒を入手しない限り、同じ透明駒を動かしたことになります。

もし透明駒で透明駒を取る手があると、透明駒の 4 連続着手は成立しないので、結局 3 手目までは透明駒によって透明駒を取った手はなく、攻方も受方も同じ透明駒を 2 回動かしたことになります。

ここで攻方の着手に戻しましょう。

動かない玉に対して、同じ駒で、駒取りを伴わずに 2 回連続王手するのは難しいものです。それができるのは将棋の駒では龍のみ。飛・馬・角・香を使って、1 枚の駒で連続王手しようと思えば、どうしても駒を取る手が入ってしまいます。

これで初手と 3 手目は 15 龍と 26 龍に確定しました。そこから 2 手目は 16 への合駒、4 手目はその合駒で 26 龍を取ったことも判明します。4 手目は横への動きなので、これが桂でなかったことも判明します。無事、26 を埋めるという当初の目的が達成されました。

見かけ上、盤上の駒はまったく動いていないのに、いつの間にか 1 手詰の準備が整っているという不思議な作品でした。

なお、作者のコメントにある久保紀貴作は以下のような作品です。

【参考】

久保紀貴作

詰将棋 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								銀	二
								王	三
					角				四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※透明駒：攻方 1 枚、受方 1 枚
(詰将棋パラダイス、2014年5月)

23 銀生 -X -X -(22)X 14 銀
まで 5 手 (最終手は成・不成非限定)

この作品では縦と斜めで連続して王手できるのは龍のみという原理が使われています。透明駒の種類や玉の右下の空間を埋めるという目的は同じですが、本局では透明駒の 4 連続着手を実現することに成功しており、上図の発展形として立派な存在価値があると思います。

【短評】

はなさかしろうさん

37 の歩が無いと…18 馬、+18、81 角成、-X、
27 同馬でも詰んでしまうということでしょうか。

変寝夢さん

-X、3 5 銀、-Xかなと思ったが、角が品切れだった。

たくぼんさん (※無解)

筋が見えない。
-X、26 玉として 27 角を動かせば 28 龍が確定する筋が本命だと思ったんだけど。

一乗谷酔象さん

棋譜表記だけを見ると何をやってるのかわからない。4 手掛けて逃げ道封鎖。

■ 117-10 高坂研氏作（正解4名）

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							香		四
							駒		五
								王	六
									七
					角				八
									九

持駒 飛香

※透明駒：攻方0枚、受方1枚

【解答】

26 飛 15 玉 17 香 - X 16 飛 まで 5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							香		四
							駒	王	五
								飛	六
								香	七
					角				八
									九

持駒 なし

【作者の解説及びコメント】

3手目の局面は、伝統詰将棋なら所謂「間接両王手」の局面。しかしここで普通の駒を16に合すると、同飛なら同銀と取られ、「37に透明駒がある」と主張されてしまう。

勿論17香も限定で、18香だと最終手を同玉と取られてしまう（つまり、この場合4手目は17透明合だったのだ！）ので注意。

「詰め上がりにおける透明駒の手余りは余詰と看做さない」というルールを最大限悪用(?)すれば、間接両王手を正当化できることに気付いたのが創作のきっかけ。

【解説】

詰上りに持駒が残っても、それが透明駒なら手余り扱いしないというルールを利用した独特

の詰上り。17が香でなければ見慣れた詰上りですが、手余り作品以外で、こんな詰上りはなかなかお目にかかれませぬ。

透明駒が持駒にあっても手余り扱いしないという規定は、透明駒が盤上にあるか、駒台にあるか特定できないことが多いために設けられた規則だと思うのですが、それを積極的に利用すれば、本局のように普通のルールでは見られない詰上りを実現できるというわけです。

もちろん、本局はルールの特殊性を利用しただけの作品ではありません。

作者自身が解説で述べている通り、4手目が通常の合駒だと、最終手に対し16同銀とすれば37に透明駒があることとなります。

また、初手17より遠くに香を打つと最終手に対し16同玉とすれば、透明駒を17に打ったこととなります。

こうした紛れに対して、透明駒を使った逃れを用意することで、本局は単なる一発芸作品になることを免れています。本局を解いた人は、透明駒を使えば絶体絶命の両王手でも逃れられる可能性があることを忘れないでしょう。

【短評】

はなさかしろうさん

おや、と思いましたが、透明駒は駒台にあるのが確実でも駒余りではない、というのは面白い見方ですね。

変寝夢さん

26飛、15玉、17香、-X、同飛で詰んでいませんか？

☆変寝夢氏は正解でしたが、それが作意とは思えなかったようです。透明駒が持駒だと確定しても手余り扱いしないという規則は、感覚的にしっくりこなかったのかもしれない。

たくぼんさん

17香の限定打が受方の防手を消す一手ですね。

一乗谷酔象さん

3手目限定。透明駒を取っても持駒なし。

■ 117-11 上谷直希氏作（正解3名）

協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
						王	銀		二
									三
						銀			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

※透明駒：攻方2枚、受方2枚

【解答】

(A)31 銀生 41 玉 22 銀生 32 玉

(B)31 銀成 まで 5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						全	X	X	一
						王		X	二
									三
						銀			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

※12は飛(龍)、11飛(龍)または21飛

【主な紛れ】(B)33 銀引成は 21 玉。

【作者の解説及びコメント】

(狙い)

- ・初形と見た目上全く変わらない図が途中に出現し、そこから1手詰
- ・同時点への同じ駒の成生の使い分け

受方透明駒は余詰防ぎで、0枚なら無数の余詰筋があります。1枚でも(A)23 銀成、1x23、31 銀生、41 玉、42 銀成などの筋あり。

手順ですべて判明しないであろう場合の透明駒は余詰防ぎに使われることが多い印象です。

【解説】

王手を掛けない駒の動きー開き王手ーで透明駒の種類を絞り込む手筋。117-9 で紹介した久保紀貴氏作にも使われていましたが、本局はそれを2回繰り返して、飛または龍が一段目と二段目にあったことを判明させます。

駒種と駒位置をこうやって絞り込んだのは、両王手の土台を作るため。こうして準備を万全に整えてから銀を成れば、今度はこれが両王手となって詰上ります。同じ地点を銀が行き来するだけで、いつの間にか詰型が出来上がっているというのは不思議な感じですね。

ところで、作意でまったく出番のなかった受方の透明駒は何のためにあるのでしょうか？

答えは作者の解説で述べられていますが、単純に言えば余詰防ぎです。両王手以外の詰上りを狙うと透明駒を使った逃れがあるので、詰手順が作意に一本化されるというわけです。

透明駒は強力な守備駒なので、そのうち余詰防止のためだけに透明駒を使う作品も出てくるかもしれません。

ところで、本局の銀の往復を見て、この作品を思い出す方も多いと思います。

【参考】

上谷直希 作

詰将棋 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

		皇							一
			飛	銀					二
角	科	銀	歩						三
		王		ス					四
									五
	馬		歩						六
									七
									八
									九

持駒 飛 銀

(詰将棋パラダイス,2016年1月,看寿賞)

65 銀 同桂 94 飛 84 角 74 銀生 62 角

63 銀上成 まで 7手

この作品で見られる銀の往復は、本局と共通する味わいがありますね。フェアリーでも普通詰将棋でも作者の好む駒や、その使い方は変わらないということでしょうか。

【短評】

はなさかしろうさん

受方に透明駒が2枚あると有無を言わせない両王手が必要なんですね。

変寝夢さん (※無解)

4 5 銀、2 3 玉、1 3 銀生 (+ 2 1 飛、-> 1 + 2)、1 4 玉、2 4 銀成かなと思ったら攻方の透明駒3枚使ってるし、そもそも最終手に-X (+ 2 6) で詰んでいなかった。

たくぼんさん

最終手 33 銀 (成) でもいいかと思ったら 21 生飛の可能性があるのでですね。
気付いてよかった。

一乗谷醉象さん

うっかり 5 手目 33 だと 21 玉ですね。

☆最終手 33 銀の紛れに言及した短評が2つ。
この紛れに気付いて貰えれば、作者も満足でしょう。

■ 117-12 変寝夢氏作 (正解5名)

All-in-Shogi 協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								王	八
								角	香
								歩	銀

持駒 なし

【ルール】

• All-in-Shogi

双方とも自分の駒だけでなく相手の駒を動かすこともできる。ただし、双方とも1手前の局面に戻す着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手玉を動かす王手や、相手の持駒を打つ手も可。
- 2) 相手に相手の駒を取らせることはできない。
- 3) 相手の駒に自分の駒を取らせたとき、その駒

は相手の持駒となる。

4) 自玉を取らせる手は反則

→参照: WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

【解答】 (※相手の駒を動かす手を v で表記)

18v 玉 27 玉 17v 玉 27 玉 18v 玉 まで 5 手

(詰上り)

									9
									8
									7
									6
									5
									4
									3
									2
									1
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								角	王
								歩	銀

持駒 なし

【作者のコメント】

1 8 香の原型消去が狙い。
回文は偶然です。

【解説】

終始玉1枚だけが動くヴァリエーション。それも回文詰のオマケ付きです。

初形で 18 香がなければ 18v 玉で1手詰。

しかし本局には 18 香があるので、玉を 27 に戻す手が禁手になりません。18 香の有無により、初形と 2 手目は別局面となるからです。

では、もう一度 18v 玉と飛び込むのは？

残念ながら 3 手目 18v 玉は 1 手目と同じ局面になるので、それは禁手です。

でも、焦る必要はありません。All-in-Shogi で禁じられているのは、あくまで「1手前の局面に戻す着手」です。「過去に出現した局面に戻す着手」すべてが禁じられているわけではありません。ですから「寄り道」を挟んで、目標の局面を「過去」に押し流して、「1手前」でなくせば良いのです。

この「寄り道」の具体的手段が 3 手目 17v 玉です。同じようでも 37 に寄ったのでは 27 に戻れないので失敗です。17 歩を消したので、27 に戻って来られたのです。

これでようやく 18 香が消えて、目的が達成されました。本来無関係な 17 歩も巻き添えで

消えていますが、今度こそ 18v 玉で詰みます。
1枚消すために2枚消す。All-in-Shogiの独特な性質が現れた作品でした。

冒頭で「ヴァリアシオン」という用語を使いましたが、これは一人で踊ることを指すバレエの用語です。All-in-Shogiは相手の駒を動かせるのももちろんですが、中立駒や AntiAndernach など、1枚の駒を連続して動かせるルールは結構あります。詰将棋には王手義務があるので「パ・ド・ドゥ」(二人の踊り)は多いですが、「ヴァリアシオン」はまだ開拓が足りません。フェアリーで、これから「ヴァリアシオン」の開拓が進むことを期待します。

なお、今回から All-in-Shogi のルール説明を少しだけ変更しました。「相手玉を動かす王手や、相手の持駒を打つ手も可」という語句を、ルール説明の主文から細則の方に移しただけで、内容は変わっていません。

今後も、ルールの主文はそのルールの趣旨を端的に表す簡潔な表現にして、細則で疑義の生じそうな事項について補足する形式に少しずつ直して行きたいと思えます。

【短評】

はなさかしろうさん

All-in-shogi はもはや、1手前の局面に戻す手は禁手、というルールが核なのではないかと思うばかりです…

☆はなさかしろうさんの仰る通り、この部分を独立させてもそれなりのルールになりそうですね。以前、神無太郎氏が「千日手禁」(連続王手かどうかに関わらず千日手になる着手を禁じる)の条件を付けて作品を作りましたが、同一局面2回で千日手とすれば、All-in-Shogi 的な、逃げる手があるように見える詰上りの作品が作れそうです。ものは試しなので、例図を作ってみました。

【参考】千日手禁の利用例

千日手禁詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
						馬	銀	爵	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

(※同一局面2回で千日手とする)

32 銀生 12 玉 23 銀生 まで 3手

☆上図では 3 手目銀を成らないことによって、最終手に対し 21 玉と戻る手を防いでいます。「詰」というより「打ち切り」と呼んだ方がしっくりきますね。All-in-Shogi の「打ち切り」感も、これと同源のものでしょう。

たくぼんさん

居食い玉ですね。これは面白い手順でした。

占魚亭さん

取る順番が大事。

一乗谷酔象さん

18 香がなければ 1 手詰。4 手掛けて準備。



■ 117-13 変寝夢氏作 (正解5名)

駒全マネ禁協力白玉詰6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
		王							四
									五
									六
									七
									八
王									九

持駒 飛金

【ルール】

•駒全マネ禁

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手でしか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。
また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」

【解答】

94 飛 84 香 85 金 同玉 95 飛 同玉
まで 6手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
	皇								四
王									五
									六
									七
									八
王									九

持駒 なし

【作者のコメント】

協力白玉系は、玉を除く全駒マネ禁の方が面白そうです。

【解説】

「駒全マネ禁」は直前に動いた駒と同種の駒が動けません。これは玉も例外ではありません。一方の玉が動くとは他方の玉が動けないのです。

本局はその性質を利用して開き王手一発で白玉を詰める作品です。2手目の逆王手に心理的抵抗が少しありますが、更に逆王手で返すことができることに気付けばほぼ解決。最後は受方の玉の開き王手で白玉が動けず、あっさり詰上ります。

言うまでもありませんが、2手目飛合はできません。「マネ禁」なので、飛打・飛合はできないのです。117-3も強い飛より、弱い香が役に立つ作品でしたが、理由は全然違いますね。

作者は玉をマネ禁の例外とする案を出していますが、今回は双裸玉なので特にそう感じたのかもしれませんが、単玉なら例外規定は不要ですし、駒数や手数を増やせば、今のルールでもそれなりの作品はできると思うので、玉を例外とする規定の導入はもう少し作例が増えてから考えても良いと思います。

【短評】

はなさかしろうさん

逆王手を無意識に避けていたのか、84香がなかなか思いつきませんでした。

4段目は最終手が成にならず、玉の体当たりも届かずでぴったりですね。

たくぼんさん

王も動けず、合駒もなしでなるほどです。

占魚亭さん

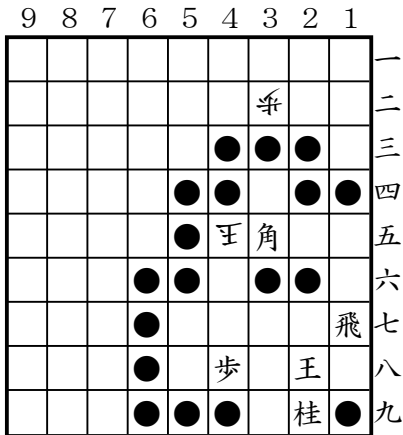
マネ禁ルールを使って合駒を限定させているわけですね。

一乗谷酔象さん

玉の手で逆王手は強烈。

■ 117-14 たくぼん氏作(正解2名) ※実質1名!

協力自玉詰 132手

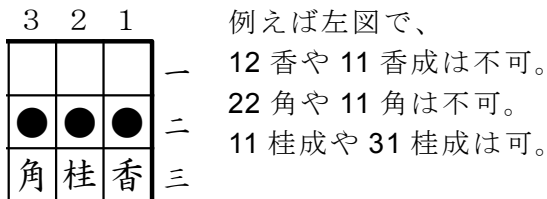


攻方持駒 なし
受方持駒 歩
※●:着手不可、不通過

【ルール】

•石 (●)

不透過・不可侵の領域を表す。
飛び越すことは可能。

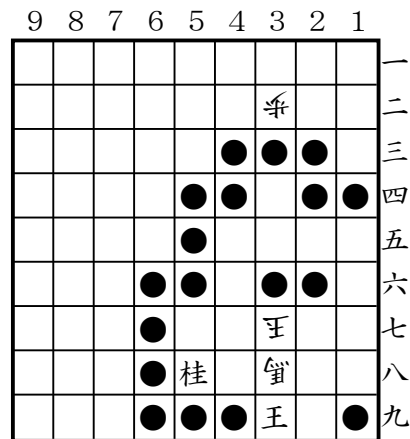


【解答】

47 飛 46 歩 同飛 35 玉 45 飛 34 玉
35 歩 25 玉 34 歩 35 角 同飛 同玉
57 角 46 飛 同角 同玉 47 歩 同玉
17 飛 27 歩 同飛 37 角 同飛 58 玉
57 飛 同玉 39 角 48 飛 同角 47 玉
17 飛 46 玉 37 角 35 玉 46 角 45 玉
37 桂 46 玉 47 歩 同玉 45 桂 27 歩
同飛 37 角 同飛 46 玉 47 歩 45 玉
46 歩 同玉 47 飛 同玉 29 角 38 飛
同角 57 玉 17 飛 27 歩 同飛 37 桂
同飛 46 玉 58 桂 45 玉 47 飛 34 玉
46 桂 45 玉 34 桂 46 歩 同飛 34 玉
16 角 25 桂 同角 同玉 45 飛 35 角
同飛 16 玉 15 飛 同玉 16 歩 同玉
38 角 27 飛 同角 15 玉 18 飛 25 玉
17 桂 34 玉 16 角 25 歩 同角 45 玉
34 角 46 玉 47 歩 57 玉 58 歩 同玉
39 王 47 玉 48 飛 37 玉 38 飛 27 玉
16 角 17 玉 37 飛 18 玉 27 角 17 玉
18 角 27 桂 同飛 18 玉 28 飛 17 玉

18 飛 27 玉 28 飛 37 玉 38 飛 46 玉
48 飛 47 角 58 桂 37 玉 38 飛 同角成
まで 132 手

(詰上り)



攻方持駒 なし
受方持駒 飛 歩2

【作者のコメント】

初形(32歩配置)にちょっと納得いかないんですが、諦めました。

【解説】

作者が取り組んでいる「石囲い」シリーズ。本局は「囲い」というより、狭く曲がりくねった「回廊」で、移動するだけでも大変です。

それ以上に問題なのが自玉の位置。このまま28にいたのでは詰みません。まずはこれを動かすことを考えましょう。

玉で直接王手はできないので、玉の移動には開き王手を使うしかありません。となると、18飛を据えて、受方玉を左側に移動させ、開き王手で自玉を移動させることになります。

玉を左側に持ってくるには、十分な持駒が必要です。桂と歩は比較的容易に持駒に加えることができますが、足りないのは大駒。使える大駒は飛と角が1枚ずつしかないので、飛と角の交換を繰り返しては埒があきません。何とか飛と角の両方を攻方の駒として使う方法はないでしょうか？

その方法が一つだけあります。

85手目38角からの一連の手順がそれ。桂と歩を持駒に蓄えた後なら、18飛と打って飛を手放しても、左辺に戻ることができるのです。

【途中図】 85手目38角とした局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						糸			一
					●	●	●		三
				●	●		●	●	四
				●					五
			●	●		●	●	王	六
			●						七
			●			角	王		八
			●	●	●			●	九

攻方持駒 桂歩
受方持駒 飛歩

謎解きとして見れば、この局面を想定できた時点で半分解けたも同然ですが、見所はここに至る緻細で複雑な手順にあります。

その手順の主役は桂。

29桂を持駒にしなければいけません、29桂を跳ねてもそこには自玉の利きがあるので、そのままでは持駒にできません。ここでも開き王手を利用します。29桂を37桂と跳ねた後、開き王手で45に跳ね、ようやく受方を取らせることができます。

この桂を合駒で稼げばそれでOK……ではありません。右辺に移る前に盤上に残した角を回収しないとイケないので、苦勞して稼いだ桂を再び使用します。58に桂を打ち、それを46から35に二段跳ねする三段活用は本局のハイライトと言えるでしょう。

付け加えれば、桂は後半でも重要な役割を果たしており、最後まで58桂が盤上に出現します。桂の大活躍が印象に残る作品ですね。作者が悔やむ32歩の配置は、合駒の順序の限定のため致し方ないでしょう。本局を解けなかった方も、ぜひ手順を並べて、巧妙な手順を鑑賞してください。「石囲いシリーズ」ではありませんが、作者は「第51回神無一族の氾濫」で、一度動かした自玉を元の位置に戻すという、高度な狙いの作品を披露してくれています。結果稿は詰パラ3月号に載るはずなので、その作品とあわせて鑑賞すると、より楽しめると思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

個々の手の意味はわからないが、視覚的に面白く感じた。特に打った桂が2回跳ねるところ（特に67～69手目）は新鮮味を感じた。

たくぼんさん

連合時の非限定防止の32歩がちょっと気になりますが、桂が舞う手順はなかなかいけるのではないかと考えています。

占魚亭さん

中盤からが難しかった。
桂の二段跳ねが2回入るのは凄いです。

☆占魚亭氏は作者以外で唯一正解者となりました。お見事です。

【総評】

変寝夢さん

透明駒を使った趣向作や長手数物（数百手～）への展開は難しいのかなあ。

☆できないことはないと思いますが、あまり向いていないかもしれません。大きな建築物を作る時、煉瓦は単純な形の方が便利です。金平糖のような形の煉瓦で建物を作ることでもできるでしょうが、同じ労力を注ぎ込むなら、単純な資材を使って、建物全体の構造に凝る方を選ぶ人が多いと思います。

たくぼんさん

Imitatorが鬼門ですね。本当に慣れません。

☆私もImitatorは苦手です。少し例題を作って慣れないといけませんね。

☆最近、佐藤達也氏による『安南詰将棋全集』や『大野孝 詰将棋全集』等の安南詰関連の作品集が刊行されました。時間がなくて読めていなかったのですが、花粉飛散シーズンに入って、不要不急の外出を控えざるを得なくなったので、この機会を利用して解図や鑑賞を行うつもりです。

花粉シーズンは頭も鈍くなりますし、他にもやりたいことや、やらないといけない案件がいくつかあるので、スローペースで読書を進めることになるでしょう。

以上

推理将棋第123回出題解説

推理将棋第123回解説 担当 Pontamon

2019年最後の123回は21名から解答をいただきました。解答、ありがとうございます。

123-1では大駒の着手の解釈が分かり難かったようです。申し訳ありません。

余詰があった123-3では約半数の解答者から作意順と余詰の双方の解答をいただきました。

123-1 初級 Pontamon 作
123と言えば 9手

「1, 2, 3と言えば『1, 2, 3, ダー』以外に何が思い浮かぶ？」

「2桁にして12, 23, 31の一巡。1, 2, 3の3つの数字を足しても掛けても6, 123は3で割り切れて商は41」

「いろいろ出たね。今日の9手で詰んだ対局は、3つの大駒による着手がそれぞれ1回、2回、3回で、12, 23, 31の3地点への着手は異なる大駒の種類だったんだ」

「最初は2種類しかない大駒だから、少なくともひとつは駒成したってことか」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・3つの大駒による着手がそれぞれ1回、2回、3回
- ・12地点、23地点、31地点へ着手した大駒は異なる駒種

出題のことば (担当 Pontamon)

情報満載なのでサラッと解いてしまいましょう。

締め切り前ヒント

6筋への大駒着手や41地点への大駒の最終手もあります。

追加ヒント

異なる大駒の駒種は、角、飛、馬。3つの大駒は初形22の角、82の飛、88の角です。

3種の大駒着回数1回、2回、3回ではありません。

推理将棋123-1 解答

▲76歩、△34歩、▲22角成、△24歩、▲31馬、△12飛、▲23角、△62飛、▲41馬まで9手

(条件)

- ・9手で詰み
- ・3つの大駒による着手がそれぞれ1回、2回、3回 (初形22の角は7手目▲23角の1回、初形82の飛は6手目△12飛と8手目△62飛の2回、初形88の角は3手目▲22角成と5手目▲31馬と9手目▲41馬の3回)
- ・12地点、23地点、31地点へ着手した大駒は異なる駒種 (6手目△12飛、7手目▲23角、5手目▲31馬)

詰上り図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王	馬		科	皇			一
			龍							二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		角	歩		三
							歩	歩		四
										五
			歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 金銀

玉は物理的に大きく作られている駒ですが大駒でも小駒でもありません。大駒は角と飛の2つのはずなのに3地点へ着手があった大駒は別の駒種とのこと。大駒が成った馬や龍と合わせれば大駒は4種類あります。手数から考えると先手だけでは実現できないので後手の大駒着手もあるはずです。



参考1図

後手の持駒：角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	王		科	皇	一
						飛	飛		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩		角	四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

参考1図までの手順、▲76歩 △34歩 ▲22角不成△同銀▲14角 △32飛 までの6手目の局面では、先手は次の手番で▲23角成を目指し、後手は△12角と△31飛で指定された3箇所への大駒着手はできますが、棋譜では▲23角成は角の着手なので△12角の角着手と同じ種類の大駒着手となり条件をクリアできません。参考1図が6手目までの局面ですから、後手が△12角と△31飛の2手を指すと9手をオーバーしてしまいます。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	馬	科	皇		一
			飛						二
歩	歩	歩	歩		歩		馬	歩	三
				歩	歩				四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 銀歩

3地点の大駒着手で別々の駒種にするには、指定された地点へ着手する前に駒成をしておかなければいけません。参考2図は9手詰では一番多い3手目までの手順の▲76歩、△34歩、▲22角成の後、先手は▲23馬で後手飛車が12地点へ行けるようにし、後手の4手目で先

手が▲31角成の角着手ができるように△54歩と付いて▲53角ができるようにしたもので、4手目以降、△54歩、▲23馬、△12飛、▲53角と指し、31の馬と41の馬で詰むように玉の退路を封鎖する協力手△62飛のあとに▲31角成とした局面ですが、この時点で既に9手を指しているため、▲41馬を指せません。もし手数が足りていたところで、▲22角成、▲23馬、▲41馬上にしても▲53角、▲31角成、▲41馬寄にしても大駒の着手回数の条件をクリアできません。

詰み形は妥当なものなので何か手順を工夫すれば解けそうな気がします。▲22角成のあと後手飛のために道をあけることを考えましたが、次の手番は後手の4手目なので△24歩で先手が角を打てる場所を空けます。先手は▲23馬ではなく▲31馬と指します。2段目が空いたので後手は△12飛のあと△62飛で玉の退路を封鎖します。そして、初形88の角は▲22角成、▲31馬と2回の着手をしているので最終手を▲41馬とすれば3回目の着手完了です。

なお、3つの大駒の着手回数の条件と駒種条件とが分かり難しく、補足コメントが遅かったこともあり、最終手▲41角成の解答も正解とさせていただきます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「上谷さんからの投稿があった時、タイトルが似ていたのと修正という文字が見えたのでいただいていた作品の修正だと思いました。実は先にいただいていた中級の渡辺作は「いち、に、さん」、上級の上谷作は「ワン、ツー、スリー」のタイトルでした。これなら123回で特集ができるということで、123に因んだ初級問題を作りました。3種の大駒の着手が1回、2回、3回だと解釈した方も居たようです。成ってもひとつの駒の着手になることを補足したつमोरの「少なくともひとつは駒成した」が余計だったのかも。」

RINTARO「3つの大駒による着手の条件が曖昧で、これで合ってるのか不安。」

■作意順での解答でした。

NAO「3つの大駒：初期配置の 82 飛(2回)、88 角(3回)、取られた 22 角(1回)。12 地点:飛、23 地点:角、31 地点:馬で割り切れていますか。なるほど。」

■作家目線だと「ひとつの駒の着手」が生・成の継続可に慣れていて「3つの駒」の勘違いは無かったようです。

ほっと「条件を満たしているかどうかの検証が意外と面倒、と思ったら誤解していた。

3つの大駒＝飛・角・馬 と解釈すると、最終手は 41 角成が正しいようだ。

3つの大駒＝初形の 88 角・初形の 22 角・初形の 82 飛と解釈すると、最終手は 41 馬だ。」

■担当（作者）は気付いていませんでしたが RINTARO さんからも条件が曖昧とのコメントがあったように解釈に差が出る表現だったようです。「ひとつの駒」の条件だと、生での着手と成ってからの着手での連続が許されるので、作図の際には物理的な「駒」と「駒種」の使い分けをしていますが解図者にとっては分かり難い表現ですね。3 地点への 3 種の着手と大駒の駒種の着手回数条件を一緒にして「3 種の大駒の着手はそれぞれ 1 回、2 回、3 回で、12、23、31 地点への着手はこれら異なる駒種」がスッキリしたのかもしれませんが。

ミニベロ「40-1 の 8 コマ移動の順ですが、まるで別物。やはり推理将棋は条件。」

■推理将棋では条件が違えば別作品。本問では解釈間違いをするような分かり難い条件だったようです。

リーグ戦ファン「 $123 \div 3 = 41$ の手がトドメになるのだろうかあと予想したらやっぱり(^_^/ (攻 5 手+受 3 手) に無駄手 12 飛。これで手順前後も防いでいるわけですね。」

■ヒント投入のための伏線でしたがバレてましたか。

斧間徳子「4 手目 24 歩の発見が難しく、とても「サラッと解いてしましましょう」という作品ではないです。しかしよくこんな 123 条件

の短編が作れるなあ后感心させられます。」

■情報満載だと、逆に指定が多くてやり難い場合もありますね。後手 24 歩の協力手は最後まで隠しておいた本間の肝。

のくせに「久しぶりに初級感が味わえました。」

■出題中の年賀推理では手数と難易度が逆転していますが、1 桁手数は初・中級が多いはずで

諏訪冬葉「△12 飛は早い段階で浮かんだけど、まさかそれを再度動かすのは予想外でした。(2 回動かす条件を考えれば自明なのに・・・) 補足ヒントを見るまで見事に誤解していました。」

■▲12 角の後▲23 角成では同じ駒種の着手になるので、12 着手は予想通り△12 飛で決まりです。

小山邦明「3 つの異なる駒種という条件で馬、飛、角となり、3 手目の角成がうまく限定できていると思いました。」

■生・成の非限定がある手順だと作者も条件付けに苦労します。「○手目は駒成」の条件は避けたいところ。「3 の倍数の手番は駒成」のような感じだとまだましかな。(奇数番とか偶数番は無理だから)

たくぼん「これは考えやすい作品。ヒントなしでも楽しめました」

■まず飛車を 12 へ持って行くには 2 段目の通路をあける必要があるので手なりで解いていきます。

緑衾「1、2、3 だけの条件できれいにまとまるものなんですね。あと、31 角成では 31 に馬を着手したことにならないのでしょうか。」

■たまたま、詰将棋パラダイスの 1 月号に記載されていましたが、駒成の着手は成る前の生の駒種の着手になります。(棋譜に記載される駒種の着手です)

飯山修「12の大駒はさすがに飛」

■22角成した馬で▲12馬として、他の地点の大駒着手ができて詰みにはつながりませんね。

山下誠「問題の意味を理解するまでの時間が考える時間より長くなりました。」

■初級は問題の意味の理解も解図も短時間でなければいけませんね。

S.Kimura「着手回数を条件に揃えるのに混乱していました。」

■棋譜に記載されている文字で数える手順の方が間違いがなくて良かったのかも。

変寝夢「『着手した大駒は異なる駒種』のヒントが少しわかりにくかった。移動する前の駒種と解釈したが。」

■「異なる駒種の大駒の手を指した」の方が分かりやすいですね。着手した駒種は移動する前の駒種になります。つまり棋譜に記載される駒種です。

D Jカートン「「6筋への着手」というヒントがなかったら△2四歩～▲2三角（～▲4一馬で詰める）という手順は思い浮かばなかった（そして10分後に投げた）でしょう。」

■1筋側から攻める際の62地点の退路封鎖はよく現れてきます。

津久井康雄「珍しく追加ヒント無しで解けた（と思います）。」

■はい、作意順での解答でした。

占魚亭「角の着手回数を確認するのに少しまごつきました。」

■条件文はひとつでも、複数の着手指定がされると条件クリアのチェックが面倒になる場合があります。

神在月生「24歩が空白を作る好手。最初は、会話に出てくる6と41は何なんだと思った

(笑)」

■6と41は、ヒントまたは解図できたときに気付いてもらうための伏線でした。

原岡望「ヒントに助けられたが24歩に気付かず苦戦」

■先手の手数が足りなくなったら後手の協力手を考える必要があります。

はなさかしろう「派手な条件で、意外に簡単。締めは商の41で。こういう問題いいですね。」

■木片としても駒の着手回数の条件はお得意でしょうから、解図は簡単だったのでしょうか。

正解：21名

RINTAROさん NAOさん ほっとさん ミニベロさん リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん のくせにさん 諏訪冬葉さん 小山邦明さん たくぼんさん 緑衾さん 飯山修さん 山下誠さん S.Kimuraさん 変寝夢さん D Jカートンさん 津久井康雄さん 占魚亭さん 神在月生さん 原岡望さん はなさかしろうさん

1 2 3-2 中級 渡辺秀行 作
いち、に、さん 11手

「いち、に、さん、いち、に、さん」

「何を言っているんだい？」

「隣の将棋が6手目から1筋、2筋、3筋、1筋、2筋、3筋、の順に指して詰んだよ」

「そんなこともあるんだね」

「最後の11手目は駒の利きのない地点に指していたよ」

(条件)

・11手で詰み

・6手目～11手目は、1筋、2筋、3筋、1筋、2筋、3筋への着手

・最終手は駒の利きのない地点への着手

出題のことば（担当 Pontamon）

最終手は玉に密着した王手ではありません。

さて、どの駒種で詰めましょうか。

締め切り前ヒント

6手目に香を動かしてはいけません。9手目にこの香を取ります。

推理将棋 1 2 3-2 解答 担当 Pontamon

▲76 歩、△42 玉、▲33 角不成、△32 玉、▲22 角不成、△14 歩、▲24 角、△33 桂、▲11 角成、△25 桂、▲34 香まで 1 1 手

(条件)

- ・ 11 手で詰み
- ・ 6 手目～11 手目は、1 筋、2 筋、3 筋、1 筋、2 筋、3 筋への着手
(6 手目△14 歩、7 手目▲24 角、8 手目△33 桂、9 手目▲11 角成、10 手目△25 桂、11 手目▲34 香)
- ・ 最終手は駒の利きのない地点への着手 (1 1 手目▲34 香)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	玉		玉	駒		馬	一
	飛				王				二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩		三
						香	角	歩	四
							科		五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

6 手目以降の着手筋が 1 筋、2 筋、3 筋、1 筋、2 筋、3 筋の順ですので、先手も後手も各筋の着手は 1 度ずつです。最終手が 3 筋なのですが最終手が 33 だと、初期配置の角や桂が利いている地点なのでそれらの駒の処理を考えなければいけません。1～3 筋の着手ができそうな先手の角を使うことになりそうですがもう一枚の攻め駒が必要です。先手が 22 の角を取って、2 枚の角での攻めが思い浮かびます。

まず初手から、▲76 歩、△34 歩、▲22 角不

成で角を入手します。後手は角や馬での詰みになりそうな 42 地点へ△42 玉で玉を上がり、先手の角は次の手番で 2 筋の着手ができるように▲13 角不成としておきます。次の 6 手目からが、いち・に・さんです。△12 香、▲22 角不成、△33 桂で桂を跳ねておいて、9 手目の▲11 角打によって最終手での▲33 角成を目指します。後手の 10 手目の 2 筋着手は△24 歩しかできません。それで参考 1 図になりますが、玉の退路を塞ぐ△52 金または△52 飛を指せていません。

参考 1 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	玉		玉	駒		角	一
	飛				王			皇	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	馬	歩		三
						歩			四
							科		五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

52 地点を埋めるのは 5 手目まで、と言っても後手の着手は 2 手目と 4 手目の 2 手しかありませんので、△42 玉と上がるのが必須な詰み形なので 2 手目の△34 を指しているのが障害になっています。

そこで、2 手目に△34 歩とせずに△42 玉と指す場合は 3 手目の▲33 角が王手になるため角は不成として 4 手目に△32 玉として、詰まされるために戦地へ玉が入ります。初手から、▲76 歩、△42 玉、▲33 角不成、△32 玉で、5 手目には攻め駒補給の▲22 角不成です。ここから、いち・に・さんが始まりますので、△12 香、▲24 角、△33 桂、▲11 角成、△25 桂、▲33 角成 と進めて詰んだ局面が参考 2 図です。



参考2図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	飛	香		香	飛		馬	
二		飛					王		皇	
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	馬	歩	歩	
四										
五								科		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

いち・に・さんの条件ばかりが気になっていましたが、もうひとつの条件「最終手は駒の利きのない地点への着手」がありました。最終手▲33角成は32に居る玉に王手を掛けて詰んでいますが、玉の利きがある地点への王手着手をしているので条件に合いません。玉の利きの範囲外から王手を掛けることができるのは、桂の他に長距離砲の大駒や香になります。と言っても、参考2図では持ち駒にこれらの駒はありません。参考2図から1手戻した局面を見ると、6手目に△12香を指したので9手目の▲11角成は空成でしたが、もし、この香が持駒だったらどの駒も利いていない3筋の地点の34へ香を打てば詰んでいることに気付くでしょう。つまり、9手目の▲11角成で香を取れるように残しておくために6手目は後手が指せる他の1筋着手の△14歩とするだけで、11手目に▲34香と打って詰ませることができるのでした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

渡辺 (作者) 「123回用の条件作。14歩はご愛嬌。」

■123回用に投稿いただきました。

RINTARO 「最終手は不思議な感じ。」

■33からだど42の退路が出来てしまうので離して打たないといけないのが不思議な感じ。

NAO 「筋指定の手順を後半に持ってきたのが工夫。遊び手の14歩が巧く入った。」

■94問題だと後半の条件指定がありますが、通常条件では珍しい部類かも。

ほっと「珍しい条件。成立しているのであれば凄い。」

■先後の着手をまとめて筋指定する条件は珍しいですね。

ミニベロ 「テーマが抜群に面白い。氏にしては優しい悪魔系。」

■「1筋側からの順で」という条件は時々見ますが、着手筋の繰り返しは記憶にないです。(記憶力の問題かもしれませんが)

リーグ戦ファン 「3筋香打ちがトドメ」だけなら10手詰でOK。そこからよくこんな無駄手配置を思いつきますね(感嘆)。14歩と25桂も実は両方10手の無駄手ではないという(^123狙いが先にあったと思えばちょっと納得ですが。)

■10手の場合は先手が68を埋める必要がありますが本作だと42は空いたまま。後手はそれで1手稼げるので14歩と25桂の両方を指せるようになっています。

斧間徳子 「香打ちは34香と35香が限定できないので最後は桂打ち、と決めつけていたため大苦戦。6手目の1筋の手がパスの手なのが、より一層難問にしている。簡素な2条件にまとめる手腕は流石です。」

■解図方針を見積もる時点では35香だと24角が利いているなんてことは分かりません。

のくせに「玉を左へ呼ぼうとすると5手目まではほぼ必然、6手目が限定される＝先手が香車を取る、と考えて解けました。」

■最終手の駒には何も利いていないので透かし詰か桂での詰みが確定しています。香を取って香で詰めることが分かれば自然と解けますね。

諏訪冬葉「2手目は△34歩と決め打っていたので香車は全く浮かびませんでした。▲33角で間に合うのか。」

■どうしても解けない時は視点を考えてみることですね。(と言いながら、自分も同じ手順を何度も繰り返して考えてしまいます)

小山邦明「後手の桂の2段跳ねが面白い手順。最終手の先手の3筋の手は、最初は桂を考えていましたが、香でも、37歩と24角が居ることで、34に限定できているのが非常に良いですね。」

■たとえ合い駒を持っていても合い駒が利かない桂は最終手候補になります。

たくぼん「34香の詰上りは予想しましたが、なかなか時間がかかりました。123とは面白い条件でした。」

■34香の詰上り予想があるのに時間がかかったとなると、引っ掛かりそうなのは6手目で意味のある手を考えてしまったのかな。

緑衾「1筋の手をどちらも詰みに役立てようとしてしまい苦労しました。」

■▲11角成は詰みに関与していますが△14歩は手待ちの無駄手。先後で必要な手数に差がある場合、手待ちであることがわからないように条件付けされることが多いようです。

飯山修「42の塞ぎ方ですが24角を見つけて一安心」

■後手の前半の着手は2手しかないので玉移動でいっぱいいっぱい。10手詰手順の応用なら△42飛なのですが...

山下誠「6手目に意味のある手を指そうとして、泥沼にはまりました。」

■△12飛とか、4手目に取った角を△16角と打って9手目に取らせるとかはできそうですね。

S.Kimura「最後に、駒の利きが味方の駒も含むことによりやく気付きました。」

■▲36香、▲35香、▲34香の非限定だから香以外の駒だと読むと失敗します。

変寝夢「締め切り前ヒントで、香の離し打ちに気がついた。6手目以降の後手の着手の意味が他の駒を動かしたくないためのみになっているのが面白かった。最終形合利かすかな、と思ったらそもそも合する駒がなかった。ところで推理将棋は透かし詰OKでしたっけ(今回は違うけど)。」

■透かし詰はOKですが無駄合いが可能なので透かし詰の場合は、合い駒なし、二歩や行先の無い駒打ち禁止で合い駒ができない形になります。

D J カートン「締め切り前ヒントがなかったら「△2一玉▲3三桂まで」の形しか思い浮かばなかった(そして10分後に投げた)でしょう。」

■先手が桂を取って、後手が21へ玉を持って行く手順は無さそう。初級～上級に関わらず考慮時間の上限は10分でしょうか。

占魚亭「最終手、駒の利きのない地点への着手」の条件で、詰み形を想定しやすかった。」

■条件数が少ない時に助かるのは、解図の糸口になる条件の手が見えたとき。

原岡望「ヒントに助けられました」

■最終手が持っていない桂打ちでしかも王手になっていない▲34桂だったので香の記入ミスと判断して正解としました。

はなさかしろう「6手目が遊び手なので違うかも、と思いながら動かしていたら、実は巧みに限定されていて吃驚でした。」

■遊び手だと分かっているでも実現が難しいものを指定される場合もありますが、多くは遊び手を他の条件に紛れ込ませるので解図していると不安になるかもしれません。

正解：20名

RINTARO さん NAOさん ほっとさん ミニベロさん リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん のくせにさん 諏訪冬葉さん 小山邦明さん たくぼんさん 緑衾さん 飯山修さん 山下誠さん S.Kimura さん 変寝夢さん DJカートンさん 津久井康雄さん 占魚亭さん 原岡望さん はなさかしろうさん

1 2 3-3 上級 上谷直希 作
ワン、ツー、スリー 1 2 手

「12 手目の小駒の手で詰みですね」
 「後手の着手は 1 筋に 1 回、2 筋に 2 回、3 筋に 3 回。きれいな配分です。不成が複数回登場するトリッキーな対局と感じましたがいかがでしょうか」
 「6 手目の角の手が強烈でした。その角は後の手順で不動でしたが、だからこそ光る 1 手とも言えるかもしれませんね」

- (条件)
- ・12 手目の小駒の手で詰み
 - ・後手の手は 1 筋に 1 回、2 筋に 2 回、3 筋に 3 回
 - ・6 手目に着手した角は後の手順で動かなかった
 - ・不成の手が複数回あった

出題のことば (担当 Pontamon)

後手着手は 1～3 筋だけなのに詰みに関与する 6 手目の角着手をするには？
 締め切り前ヒント
 後手は桂を跳ねて行き、とどめは両王手です。

【余詰修正】
 会話
 「12 手で詰みですね」⇒ 「12 手目の小駒の手で詰みですね」
 条件

・12 手で詰み ⇒ 12 手目の小駒の手で詰み

推理将棋 1 2 3-3 解答 担当 Pontamon

▲76 歩、△32 飛、▲33 角不成、△同桂、▲48 玉、△18 角、▲38 玉、△25 桂、▲48 銀、△37 桂不成、▲39 玉、△29 桂成 まで 1 2 手

- (条件)
- ・12 手目の小駒の手で詰み(12 手目△29 桂成)

- ・後手の手は 1 筋に 1 回、2 筋に 2 回、3 筋に 3 回 (6 手目△18 角、8 手目△25 桂、12 手目△29 桂成、2 手目△32 飛、4 手目△33 同桂、10 手目△37 桂不成)
- ・6 手目に着手した角は後の手順で動かなかった (6 手目△18 角)
- ・不成の手が複数回あった(3 手目▲33 角不成、10 手目△37 桂不成)

詰上り図

後手の持駒：桂歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	将	將	王	王	將		皇		一	
						飛	皇		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三	
									四	
									五	
		歩							六	
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七	
					銀		飛	皇	八	
香	桂	銀	金		金	玉	手	香	九	

持駒 歩

6 手目に角の着手を指定されていますが、後手の全着手の筋は限定されているので△14 歩や△12 香からの 1 筋の角着手はできません。3 筋なら 3 回の着手ができるので、△34 歩からの△33 角や△32 銀からの△31 角などができます。これらの角着手は最短で 4 手目に可能ですので、6 手目にさらに角を動かして、詰みに都合の良い地点への移動ができるかもしれません。詰みに効果がありそうなのは、△33 角から△15 角でしょうか。

後手の着手だけで 6 手目に角の着手をする手順を考えましたが他の手順としては、3 手目に先手が▲22 角不成か▲33 角不成をした角を 4 手目に取って、6 手目に好きな地点へ打つ手順があります。

4 手目に先手角を取るにしても、1～3 筋での着手数に限定されているので効率が良いのは、▲76 歩、△何か、▲33 角不成の時に、△同角とするか△同桂とするか、4 手目に 33 へ移動できるように 2 手目に 32 銀、32 金、32 飛、32 玉としておいて▲33 角不成を同で取る手があります。端歩や△25 金などで先手玉を詰める形

があるので先手玉は中段へ進出させてみます。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉		銀	桂	香	一
	飛						角	角	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
							歩		四
							歩		五
		歩		歩	玉				六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考1図は、初手から、▲76歩、△32金、▲33角不成、△同金、▲48玉、△12角、▲46歩、△34金、▲47玉、△24歩、▲36玉、△25金までの12手を指した局面です。6手目の△12角によって、45地点の玉の退路は抑えていますが、47の退路は空いたままです。もし、6手目に△16角としておいて同手順で進んで、最終手を△25角にすると47地点の退路を抑えることはできますが26地点が玉の退路として空いているので失敗です。(6手目に打った角を動かしてしまうし)

攻めを考えると有力な2手目は△32飛でしょうか。3手目に▲33角不成で飛先の歩を取ってもらうと先手陣まで飛の利きが直射します。4手目に取った角は好きな地点へ打ちますが、その後の着手は禁じられています。ここで注意しなければいけないのは、6手目の着手した角はそれ以降で動かすことはできませんが、別の角の着手が禁じられている訳ではありません。そんなミスディレクションには引っ掛からないぞという手順が参考2図になります。



参考2図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	一
							飛		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
							歩		四
									五
		歩						歩	六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	桂	七
				飛	玉		角		八
香	桂	銀	金		金	銀		香	九

持駒 歩

参考2図の手順：▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同角、▲58飛、△28角、▲16歩、△15角、▲17桂、△24歩、▲48玉、△37角上成まで12手

参考2図では先手玉が見事に詰んでいて、4手目に△33同角とした角はその後△15角から△37角上成と2回の移動をしています。なので、6手目に△28角の代わりに△15角を指してしまうと最終手で△37角成とできないので注意が必要です。無事、解図できたと思ったのですが、「不成の手が複数回あった」の条件を満たしていませんでした。先手の▲37銀が間に合っていれば最終手は△37角上不成でも詰むので「不成の手が複数回あった」の条件を満たすことができたのですが僅かに届いていませんでした。

4手目△33同飛の後、不成回数条件を満たす△37飛不成からの△39飛成のはてるま手筋では3筋の着手回数をオーバーするので失敗です。そうすると4手目は△33同桂でしょうか。6手目の角打ちする地点はちょっと置いておいて、桂が33に居座っているのは飛を使えないので跳ねるのですが条件から8手目は△25桂しかありません。これで37地点へは25の桂と32の飛が利いているのでこの地点の着手で玉を詰めるのなら、4手目からの手順は△33同桂、▲48玉、△xx角、▲38玉、△25桂です。37地点の先手の守りの桂があるのでそっぽの▲17桂と移動させるために9手目から▲16歩、△何か、▲17桂、△37飛成/37桂成で詰めるなら玉の退路として空いた29地点をカバーする必要があります。そこで6手目は△18角です。

これで詰んでいるのですが、参考2図と同様に「不成の手が複数回あった」の条件を満たしていません。そこで6手目は△18角で8手目の△25桂の局面まで戻ってみます。盤面をみていると後手は残り2手で△37桂不成から△29桂成の空き王手が見えますが、先手は歩を持っているので合駒可能です。しかし、△29桂成が両王手なら合駒される心配はありません。先手は△29桂成が王手になるように玉を39へ持っていきます。すなわち、9手目から▲48銀、△37桂不成、▲39玉、△29桂成の12手目の両王手で詰みとなります。

余詰手順は有名な手筋のオンパレードでした。粗検、申し訳ありませんでした。

両王手△28飛不成

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同角、▲26歩、△15角、▲36歩、△同飛、▲48玉、△26飛、▲何か、△28飛不成

両王手△29飛不成

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲58金右、△16角、▲48銀、△37飛不成、▲49玉、△27飛不成、▲18飛、△29飛不成

48銀をピンして△29飛不成

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同角、▲68飛、△15角、▲58金右、△37飛不成、▲48銀、△27飛不成、▲36歩、△29飛不成

二枚角

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同角、▲68金、△15角、▲58玉、△37飛不成、▲32歩、△27飛不成、▲46歩、△25角

玉頭への△27飛成

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲18飛、△16角、▲48玉、△24歩、▲38玉、△37飛不成、▲28玉、△27飛成

玉頭への△37飛成

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同桂、▲16歩、△26角、▲17桂、△25桂、▲48玉、△17桂不成、▲38玉、△37飛成

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

上谷(作者)「拙作が余詰とのことで大変申し訳なく思います。」

■粗検、申し訳ありませんでした。

RINTARO(双方解)「予想通り、作意は桂を使う手順でした。最終手小駒ってことで、かなり手が限定されますね。」

■元の条件や会話の変更内容が一番少ない修正でしたが、限定がかなりきつくなったようです。

NAO(双方解)「38玉を引く手と9段目への桂成を使った両王手の詰形が斬新。」

■新担当への修正作の再投稿だったのですが、『原案にあった条件「後手は角を取った直後の手番で角を打った」を変更したことが裏目に出ました。』とのコメントがNAOさんからありました。元作品を見ていませんが、4手目同角ではなく同飛でも直後の手番で角を打てるので条件修正されたのかな？

ほっと(双方解)「(余詰解)5手目が58飛~98飛でもOK、また18飛の場合は5~9手目が手順前後成立なので余詰でしょうか。

(作意解)詰上りが見えず、直前ヒント待ちになってしまった。なるほど両王手か。」

■飛角での両王手が主流ですが、飛と小駒での両王手だと詰み形が浮かんで来ないかもしれません。

ミニベロ(双方解)「ヒント待ちでやっと解けた。効率の悪い玉の動きは、推理将棋では通常使わない順。全く見えなかった。」

■解答4人目にして4つ目の余詰手順でした。大駒と小駒のコンビの両王手作を作られていても他の作者に出されると見え難かったですか。

リーグ戦ファン「桂の連続跳躍問題(私は大好き!)には珍しく守備側の囲いに手順前後の余地がない綺麗な筋なので、こっちは手順が先に完成されていて、後から123狙いの条件付けに当てはめたのだと想像します。」

■詰み形や手順に趣きがある作品の場合、条件

付けに一苦労することが多いです。本作ではピッタリのワン、ツー、スリーを見つけたのだと思います。

斧間徳子「今回はこれが一番早く解けました。桂の4段活用は爽快です！」

■難易度設定は間違っていないと思うので相性と閃き具合の違いでしょうか。

のくせに(双方解)「小駒の手で詰みが大きなヒントで、桂馬が出ていく以外ないと推定。15角の空き王手をまず考えましたが、33で取った歩の処置に困り、両王手を発見。」

■32の飛だけの空き王手だと歩の合いができてしまいます。打ったら動かない角がいい仕事をします。

諏訪冬葉(双方解)「(余詰解)11手目の選択肢が16通り・5手目と7手目の手順前後・9手目と11手目の手順前後で70通り以上の解があります。

(作意解)桂馬をはねて両王手
△14角+△25桂→△37桂成：ならずの回数
が足りない
△24飛+△25桂→△37桂生：圧倒的に手数
が足りない
と違ってたらもう一回跳ねるのか」

■悩んだ末の解後感は爽快だったことでしょう。

小山邦明「手順1の方だと1筋の手が複数あったり、37飛不成との手順前後が成立。手順2の本命手順は、見事な桂の4段活用ですばらしい。」

■解答いただいた手順1の△26角と△27飛成での空き王手では▲37歩の合いが利くので条件を満たしていませんでしたが、手順2は作意順での正解でした。

たくぼん「これは両王手というヒントがなければかなりの難解作でしょう。当初角と桂の両王手を考えましたが手数が足りませんでした。」

■角との連携だと桂成を支える駒の手配が大変そうですね。

緑衾「手順と条件は面白かったのですが、余詰

修正がヒントになってしまったのが残念です。」

■小駒の着手で詰みとなると駒種は絞られるうえに筋の着手回数の制限があるので解図し易くなりました。

飯山修「桂の両王手という事で14角25桂47玉を考えたが56の脱出口を止められず」

■△37桂成を支える駒の手配だけじゃなくて、脱出口を塞ぐ手も必要なので手数が足りないのですね。

山下誠(双方解)「6手目の角を角の移動と考えて悩み、次にどこに置くかで更に悩みました。最終ヒントの両王手がなければ、1八角を思いつきませんでした。」

■結果論ですが、余詰解の中にも両王手の手順があるので条件として両王手は使えません。

S.Kimura(双方解)「桂馬を使うことは気付いていましたが、玉を39に動かすのは無理と勘違いしていたので苦労しました。私にしては珍しく、28で飛車か角が成る余詰解の方が早く見つけられました。」

■▲18飛とか▲58飛で飛が退いて、▲28銀で場所を空けてからの▲39玉が普通の動きなので、本作での△39玉までの手順は浮かび難いでしょう

変寝夢「7六歩、3二飛、3三角生、同飛、で1五角と打って3七飛生から両王手、と思ったら最終手小駒だった。7六歩、3二飛、3三角生、同桂からもう一回桂を動かすことを念頭に考えたが詰まない。残念。」

■あと2回桂を動かせば詰みがありました。

D Jカートン「確かに△1八角は「強烈」だ。両王手というヒントがなかったら△1八角なんて手は全く思い浮かばなかった(そして10分後に投げた)でしょう。」

■普通は攻め駒として使う角を一手しか使えないのでどうやって攻めるのかと思いきや、大駒を贅沢に成桂の支えにする形でした。

占魚亭「桂跳ねて両王手で詰みなのは予想できるが、この条件での組み立て方が全く浮かばない。」

■角と桂での両王手を検討されたのでしょうか。
原岡望（余詰解）「余詰の方ですが」

■締切日にして6つ目の余詰解でした。△17桂不成で29地点をカバー。

はなさかしろう（双方解）「後手の桂跳ねは本命でしたが、先手の39玉のしゃがみ直しがなかなか見えませんでした。」

■初形の右銀位置への玉移動が想定する経路と違い、48からなら一手で行ける39地点を38経由で移動する手順は見え難いです。

正解：19名

RINTAROさん NAOさん ほっとさん ミニベロさん リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん のくせにさん 諏訪冬葉さん 小山邦明さん たくぼんさん 緑衾さん 飯山修さん 山下誠さん S.Kimuraさん 変寝夢さん DJカートンさん 津久井康雄さん 原岡望さん はなさかしろうさん

総評

RINTARO「3問ともあっさり解けたけど、すっきりしない。」

■初級の条件の解釈とか上級の余詰手順とかで解後感を得られなかったですね。

NAO「123特集。大駒で組んだ1, 香が止めの2, 桂が主役の3, いずれも楽しめました。」

■偶然開催できた123特集でした。もうこの後は特集ができるような在庫状況ではなく、4月の127回くらいの出題が最後で休載になる恐れが…。新作とか条件変更したりメイク作品の投稿をお待ちしています。

ほっと「推理将棋第123回の解答です。123-3が余詰っぽいので早目に解答を出します。」

■余詰み指摘、ありがとうございました。そして初級の条件の解釈でご迷惑を掛けました。

斧間徳子「今月は難し目でした。初級の24歩、中級の14歩、上級の18角のように効果がすぐにわからない手があると難し目になりますね。123に因んだ特集を組めるというのは凄いなと思いました。」

■作品の在庫状況から言えば特集を組めたのは奇跡に近かったです。7月にはオリンピック特集を開きたいのですが作品が集まるかどうか。元日の「たくぼんの解図日記」によるとWFPでは早々と2月号で「オリンピックに因んだフェアリー作品（推理将棋含む）」が開催される予定のようです。こちらへの投稿作が残るかどうかカギ。

諏訪冬葉「角二枚で退路を塞いで香車」「桂馬の4段跳ね」どちらもノーヒントでは無理です。」

■「詰み上がりが特殊なものは作品になる＝解図が難しい」ですね。

たくぼん「三が日に解くにはちょうど良い難易度でした。余詰は（基本作者の責任でしょうから）致し方ない部分もあると思います。余詰を恐れず楽しめる作品を今年もよろしく願います。」

■その作者責任の余詰作を「ちょっと早い2020年年賀詰作品展」へ投稿し、しかも二度の余詰修正とは、トホホ。

緑衾「1、2、3を絡めてきれいにまとめた問題ばかりでした。こういう条件からの逆算での作題ってどうやるのでしょうか。」

■この手の条件では逆算での作図ではなく、設定した条件で詰めることができる詰み形を探索することが多いでしょう。

飯山修「前回122-3の66を発見した時はうれしかった。直前ヒントで66が提示されているとこの感動を味わえなかった事になる。私案だがヒントは初級は出題の最初から甘目で客寄せし、上級は最後まで辛目というのが良いのでは」

■ ヒント投入の参考にさせていただきます。甘目のヒントでないと 10 分で解図を投げられても困るので、どうしたら良いものか。(笑)

S.Kimura 「明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。今回は 123-3 の作意解がヒント待ちでしたが、直球ヒントだったので、助かりました。」

■ 上級のヒントはもう少し辛目でも良かったかな？

変寝夢 「自作ソフトは透かし詰不可（協力系の詰み判定を行っているため）のため、透かし詰 OK ならば厳しいことになってしまいます・・・。」

■ 形は透かし詰（王手している駒と玉の間が空いている）ですが推理将棋では無駄合いができるので自作ソフトの判定で OK だと思います。素人考えだと透かし詰判定を入れるの方がプログラミングが面倒な気がします。

D J カートン 「起床後（出勤前）に考えたら 3 問合わせて 20 分未満で解けた。推理将棋も午前中に考えた方がいいのかも知れません（←意味はブログをお読みください）。」

■ 2019/12/29 のブログを拝見しました。そう言われれば私も通勤の行き電車で解けることが多いです。

津久井康雄 「今回は解けたように思いますので応募します。よろしくどうぞ。中級と上級は追加ヒント無しでは手も足も出ませんでした。」

■ 123 回は全問正解でした。解けなくても感想を送っていただくと作者の励みになりますのでよろしくお願いします。

神在月生 「不覚にも酔ってしまい、最終日の馬鹿力は発揮できず、今回は一問のみ（泣）」

■ 年末年始での飲酒に身体が慣れて、アルコールの吸収能力が上がってしまったとか...。(笑)

推理将棋第 1 2 3 回出題全解答者： 21 名
RINTARO さん NAO さん ほっとさん ミニベロさん リーグ戦ファンさん 斧間徳子さん のくせにさん 諏訪冬葉さん 小山邦明さん たくぼんさん 緑衾さん 飯山修さん 山下誠さん S.Kimura さん 変寝夢さん DJ カートンさん 津久井康雄さん 占魚亭さん 神在月生さん 原岡望さん はなさかしろうさん

やさしい双裸玉 Imitator【蔵出し編】

占魚亭

☆WFP117-4(神無太郎氏作)が数年前に作ってお蔵入りにした図でビックリ。お蔵入りさせた図が他にもあるので、その一部を2回に分けて放出します。解答の募集はしませんが、コメントがありましたら sengyotei@gmail.com へどうぞ(3月15日まで)。

—ルール—

【協力自玉詰】 先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【Imitator(■または I)】 着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

第1問

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
							王		五
								■	六
									七
									八
									九

持駒 歩

※■ : Imitator

第2問

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
									五
							王		六
									七
								■	八
									九

持駒 香

※■ : Imitator

第3問

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
							王	■	五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

※■ : Imitator

<余談その1>

「伝承」の具体的な完成形が見えてきました。感覚的な進捗率は80%を超えていて、9月21日の福岡での第36回詰将棋全国大会でどうお披露目しようかとワクワクしながら妄想している毎日です。

<余談その2>

賀正賀正正月正月

= 初春寿寿寿初春×寿

先月掲載したこの年賀覆面算、当然のことながら10進数であることを前提としています。

ところが会社の同僚から「一般のn進数でも成立しそうですね」という一般民間人らしからぬ指摘がありました。

そこで、6進数～16進数の範囲で愚直に確認してみたところ、9進数で解（唯一解）がありました。これだけなら別にどうということもないのですが、その解が10進数での解と極めて似ていたのです。単なる偶然とは思えません。

ということで、大学のときの同級生から協力を得る一方で、厳密性には欠ける可能性はあるものの高速チェックできる方法で確認の範囲を65536進数まで広げ、その理由に迫りました。

経緯はこちらから。

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pvt/hny/>

<ルール説明>

【点鏡】

55に関して点对称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

[補足]

行き所のない駒の禁則は適用されない。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

<問題>

【4-1】

点鏡協力自玉スタイルメイト 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【4-2】

点鏡協力自玉スタイルメイト 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【4-3】

点鏡協力自玉スタイルメイト 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

強欲な世界 PART10 解答発表

たくぼん

久しぶりの強欲な世界でしたが3名の方から解答、感想を頂きました。ありがとうございます。難しい作品はなかったのも楽しんで頂けたようでよかったです。

解答者：橋本孝治、一乗谷酔象、占魚亭

①では2年目に神無一族の氾濫で発表した元図を出題してしまうという失態を演じてしまいました。今年も先が思いやられますね。

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ

①

強欲協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					と			と	一
								と	二
角				桂				と	三
	と	と					王		四
香	香						香		五
歩	歩	飛				香			六
香	香	と				と	歩	歩	七
龍	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	桂	八
角	歩	銀	桂	香	銀	銀	香		九

持駒 なし

- 23 と 同玉 22 と 同玉 21 と 同玉
- 31 と 同玉 36 飛 同金 41 桂成 同玉
- 52 金 同玉 63 と 同玉 74 と 同玉
- 75 角成 同玉 86 と 同玉 97 龍 同玉
- 98 香 同玉 97 金 99 玉 98 金 89 玉
- 99 金 79 玉 89 金 69 玉 79 金 59 玉
- 69 金 49 玉 59 金 39 玉 49 金 29 玉
- 39 金 18 玉 29 金 17 玉 27 と 同金
- 18 歩 同金 同金 同玉 17 金 28 玉
- 27 金 38 玉 37 金 48 玉 47 金 58 玉
- 57 金 68 玉 67 金 78 玉 77 金 88 玉
- 87 金 同玉 76 銀 96 玉 85 銀 95 玉
- 96 金 まで 73手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
王	銀								五
金									六
									七
									八
									九

持駒 なし

橋本孝治

既視感があると思ったら、これは「第49回神無一族の氾濫」(詰将棋パラダイス、2018年12月)で出題した作の原図ですね。

★序の手数異なる元図で、当初本図を七郎さんに投稿したのですが序を改良して再投稿したのが氾濫発表図です。その改良前の作を今回発表してしまうとは何と言ってもお恥ずかしい次第です。

一乗谷酔象

お約束の8、9段目の往復運動。易問でした。

占魚亭

97金以降の駒消去の流れがいいですね。

②

強欲協力詰 75手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	王					角	角		一
	香				銀				二
香				香	歩				三
香		歩			飛	と	と		四
歩	歩	歩		歩	と				五
				桂	歩				六
	桂		歩	桂	と	と	歩		七
香		歩		と	香		香		八
	飛		と	と	桂	香	香	銀	九

持駒 なし

- 91 香成 同銀 同香成 同玉 82 銀 同玉
- 83 歩 同玉 75 桂 同杏 85 飛 同杏

84歩 同杏 同飛 同玉 86香 95玉
 96歩 86玉 33銀生 96玉 97歩 同金
 同角成 同玉 88金 同玉 79と 同玉
 69と 同玉 59と 78玉 69と 67玉
 58と 同玉 48と 同玉 38金 同金
 同と 49玉 39金 同金 同と 同玉
 29金 同玉 18銀 28玉 17銀 27玉
 16銀 同玉 15と 同玉 25と 同玉
 35と 同玉 44銀生 同銀 同角成 46玉
 35銀 56玉 34馬 55玉 33馬 54玉
 32馬 55玉 65馬 まで 75手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			馬	王		銀			五
									六
			桂						七
									八
									九

持駒 なし

★今回の中で解答者が一番難しかったと思われたのが本作。21手目成・生の選択の分岐点もありますが、収束があまり見慣れない手順で悩まれたようです。

橋本孝治

21手目成・不成の選択にも迷いましたが、それ以上に収束が難物でした。馬と銀の位置が作意とは5筋を挟んで逆の詰型を想定したのと、67手目銀を手放す手が指しにくかったためです。33馬～32馬のような駒取りに関係ない手が入ると強欲詰は難しくなりますね。

一乗谷酔象

Part10の最難問か。中央で詰む形には銀を75に置かないといけないと思ったが、35銀・65馬の詰み形があった。下辺のと金の捌きは流石。

占魚亭

都煙は予想していませんでした。

★初形からは分かり難いかもかもしれませんね。

③

強欲協力詰 77手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	香								一
歩									二
	桂	と						王	三
	香		歩						四
と	香	香	歩	歩	金	と	歩	歩	五
と	香	歩	角	歩		龍		歩	六
	歩	歩	銀	金	歩		銀		七
桂	桂			と		王			八
	桂	玉			馬	金	歩	飛	九

持駒 なし

★特に悩むところはなくすいすい解ける作品。感想も書き難いかも。

24と 同玉 25龍 同玉 16銀 同歩
 29飛 同全 16馬 同玉 17歩 同玉
 18歩 同玉 29金 同玉 38銀 同玉
 48と 同玉 47金 同玉 56銀 同玉
 55金 66玉 65金 同玉 77桂 64玉
 76桂 75玉 74と 76玉 75と 77玉
 76と 87玉 77と 98玉 97と 同玉
 96と 同玉 87と 同玉 88歩 86玉
 87歩 85玉 86歩 84玉 85歩 83玉
 84歩 92玉 83歩成 91玉 92歩 同金
 同と 同玉 93歩 同玉 94歩 同玉
 95歩 同玉 96歩 同玉 97歩 同玉
 98歩 同玉 88金 99玉 89金 まで 77手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
王	金	玉							九

持駒 なし

橋本孝治

最後の 19 手は天竺詰のルールでも同じ手順で詰みますね。「左真樹氏へのオマージュ」と名付けたら信じる人も居そうです。

★左氏の作品をまた見たいですね。

一乗谷酔象

7 筋と 9 筋のと金が捌ければ、一気に進む。
66 角が動かないのが意外。

占魚亭

後半のために歩を備蓄。88 歩からの流れが気持ちよかったです。

④

強欲協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	飛	五
香	ス	ス	ス	ス	ス	ス	桂	金	六
卒			ス	香	と	香	馬	銀	七
銀	王	角	と	香	卒	香			八
桂	卒	香	桂	と	龍	桂			九

持駒 なし

97 銀 同玉 98 香 同玉 89 角 99 玉
88 銀 同玉 78 と 89 玉 79 と 同玉
78 金 同玉 58 龍 同と 68 金 同全
同と 同玉 59 銀 69 玉 58 銀 同玉
48 と 同玉 49 香 39 玉 28 馬 49 玉
39 馬 同玉 28 銀 38 玉 27 銀 同玉
17 金 37 玉 27 金 同玉 17 飛 26 玉
16 飛 25 玉 26 歩 同と 同飛 35 玉
36 歩 同と 同飛 45 玉 46 歩 同と
同飛 55 玉 56 歩 同と 同飛 65 玉
66 歩 同と 同飛 75 玉 76 歩 同と
同飛 85 玉 86 歩 同金 同飛 95 玉
85 金 まで 73 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
王	金								五
	飛								六
									七
									八
									九

持駒 なし

★橋本さんが言われているように密集形に挑んだ作品。大駒含めた全駒にした時点で長方形にならないのに気付いたのは創作後半になってから（笑）さてさて強欲版月蝕はできるかどうか？

橋本孝治

これは密集形を目指した作品？本気で挑めば強欲版「月蝕」が可能かもしれませんよ。

一乗谷酔象

58 で取った 1 歩をやっての収束が気がつきにくかった。と金を 1 路ずつずらすんですね。

占魚亭

五段目の歩を消していく趣向手順が見事です。今回のベストだと思います。

⑤

強欲協力詰 74手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	ス	と	香						一
と					と	王	龍	卒	二
香					香			歩	三
ス					圭			ス	四
と	馬	香	香		圭			ス	五
飛			香		圭			と	六
と			香		馬			ス	七
桂			歩		と			と	八
と	香	香	香			と	香		九

持駒 なし

22 玉 12 歩成 同玉 13 香 同玉 14 馬 同玉
15 と 同玉 16 歩 同玉 17 と 同玉
18 歩 同玉 29 と 同玉 39 金 同玉

49 と 同玉 66 香 85 全 48 金 同玉
 47 圭 同玉 46 圭 同玉 65 香 96 全
 45 圭 同玉 44 金 同玉 43 と 同玉
 52 銀 同玉 62 香成 同玉 61 と 同玉
 71 金 同玉 81 と 同玉 91 香成 同玉
 92 歩 同玉 93 歩 同玉 94 と 同玉
 86 桂 同全 95 歩 同玉 86 と 同玉
 87 歩 同玉 98 銀 78 玉 89 銀 69 玉
 78 銀打 同全 同銀 68 玉 69 銀打 79 玉
 89 と まで 74 手

詰上図

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
												銀							八
											と	王	銀						九

持駒 なし

★還暦を記念して初形「60」の全駒煙です。かなり無理作りで初形不可能局面で妥協している点でイマイチですね。強欲協力詰はかなり創りましたが、駒を縦や横で1直線に配置するのは意外と難しいというのが感想です。毎年賀詰を発表していますが、いつも悪戦苦闘です。

橋本孝治

最初は 56 手目 86 桂を忘れて1回やり直し。人生はやり直せなくても、詰将棋は何度でもやり直せます。初形は不可能局面という無粋な呼び方ではなく、「エデンの園配置」と呼びたいですね。

★気を使って頂いて恐縮です。

一乗谷酔象

85 馬と 96 飛を使う開き王手が見えれば一気に手が進む。初形の不可能局面にびっくり
 占魚亭

全駒使用の初形曲詰煙は初めて見ましたね。素直な手順のストレスフリーな作品でした。

総評

橋本孝治

今回は①が再発表みたいになってしまいましたね。発表作が多くなったら、既発表図の整理をした方が良くと思います。私も「無神都市」以降の発表作の整理をしていないので、そろそろ“自作管理用作品集”の作成を考える必要があります。

★実は強欲作品につきましては EXCEL で作品を管理しておりましたが、2018 年氾濫に発表した作品に発表済チェックを入れるのを忘れておりました。これでは管理しているとはいえません。反省仕切りです。

一乗谷酔象

久々に強欲な世界を楽しめました。これまでのシリーズより易しく感じたのはルールに慣れたせい、たくぼんさんの作風に慣れたせい、か。

強欲な世界 PART11

たくぼん

先月に引き続き強欲な世界を開催します。
今回の作品群もこれまで発表に至らなかった作品たちで先月よりも難易度は下がっていると思います。

太郎さんや占魚亭さん同様に特に解答募集はしませんが、感想等はよろしければお送り頂けると嬉しいです。解答は次号にて発表します。

感想等送り先：takuji@dokidoki.ne.jp

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ

①

強欲協力詰 71手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬			龍				全	香	一
		ス	ス				全	ス	二
		ス	歩				全	ス	三
		桂					杏	ス	四
王	歩	香					圭	ス	五
	ス	圭	ス			杏	ス	ス	六
			手	龍		ス	ス	香	七
				歩	金	金	香	馬	八
					香	香	歩		九

持駒 なし

②

強欲協力詰 81手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香		龍	香		銀	香	と	ス	一
歩			香		歩			歩	二
圭		桂	香		香			ス	三
香								と	四
圭				王				ス	五
香	ス							と	六
香		と		歩		馬		ス	七
桂	角	歩						と	八
龍	香	ス	と			玉	と	香	九

持駒 なし

③

強欲協力詰 79手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角									一
	玉			香	銀				二
				桂	歩			ス	三
	香	桂		桂	ス	飛	香	歩	四
	香	香		手	龍		ス	王	五
				と	香				六
歩	香	と	と	角					七
香	香	香	香	と	と		歩	ス	八
	歩		香	歩			銀	香	九

持駒 なし

④

強欲協力詰 81手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀			香	と	一
銀			馬						二
龍	金			香	歩	と			三
香		香		銀			馬		四
ス	歩			香	香		飛	歩	五
杏				香	歩	香	歩	科	六
杏				金		と	と	と	七
杏			圭	圭					八
杏	圭		ス	ス	王				九

持駒 なし

⑤

強欲協力詰 79手

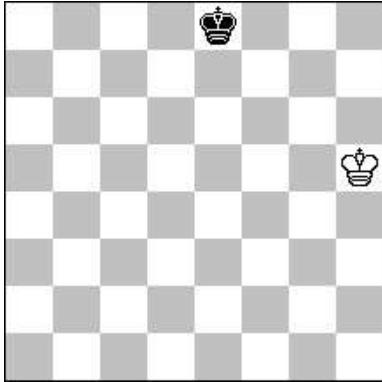
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	香			と	と	と			一
						香			二
								龍	三
									四
桂							ス	と	五
							歩	科	六
歩	ス	香	と	ス	ス	桂	香	香	七
香	香	歩	香	と	と	香	香	飛	八
銀	香	角	銀	と	銀	と	角	桂	九

持駒 なし

レトロプロブレム入門(2)

高坂 研

(1)Julio Sunyer(Chess Amateur 1926)



双方1手ずつ戻し、それから H#1 にせよ(1+1)

(1)の作意順は、Retract:-1.Kg6xRh5 Rh8xQh5 and 1.0-0 Qh7#というものです。castling がすぐに閃きましたか？

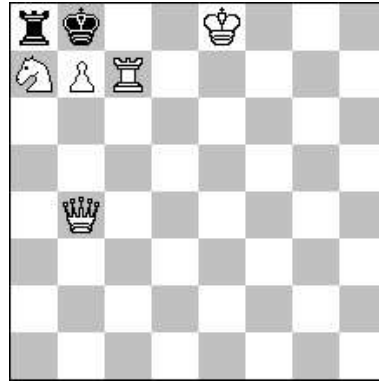
でも、本当は上の手順が閃いただけでは不十分です。ちゃんと、H#1の局面で黒のcastling が合法であることを確認しましたか？ここでは黒番ですから、その直前の着手は白の手です。このとき白が何か黒駒を取っているとすれば、黒のKとRがいずれも不動であることを正当化できます。よって黒はcastling 可能です。

ちなみに、castling は「不可能であることが証明できない限り可能」というのがプロブレムにおける一般則です。対照的に en passant は「可能であることが証明できない限り不可能」となっています。どちらもレトロでは頻出なので、是非御記憶下さい。

ついでに、逆算時の表記法についても説明しておきましょう。例えば、-1.Kg6xRh5 というのは、h5にいる白Kをg6に動かし、h5に黒Rを発生させることを意味します。つまり、あたかも映画のフィルムを逆回しにするように、すべてにおいて通常の手順と逆向きの動きと解釈するのです。

出題図で白黒の順に戻すのは、「H#1の局面において黒がcastling せずに Rxh5 とし、次に白が Kxh5 としたので出題図になった」と考えれば理解できますね。

(2) Walter Freiherr von Holzhausen (Akademische Schachblätter 1901)



#1 (5+2)

#1ということなので、普通なら白が1手指せばそれで詰むのですが、いくら探してもそういう手は見つかりません。これで1手詰とは、一体どういうことなのでしょう？

その謎は、簡単なレトロ解析によって解決します。もし現在白番だったとすれば、その直前に黒の着手があった筈ですが、それは何でしょう？一寸考えてみれば分かる様に、そんな手はありません。ということは、現在白番ではなく黒番だということになります！

よって作意は、

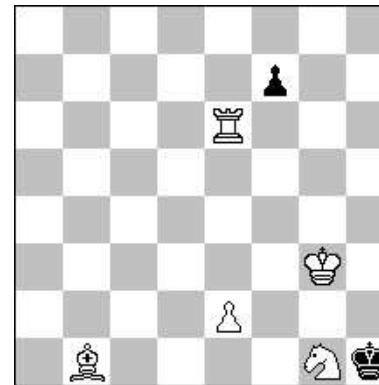
1...Kxc7+Kxa7+/Rxa7

2.bxa8=S/b8=S/Rc8#

となります。このように「どちらの手番なのか」を問う問題も、レトロではよく見かけるところです。

同様のテーマを持つ作品を、もう一作紹介しておきましょう。

(2-a) Axel Åkerblom (Svenska Dagbladet, 1925)

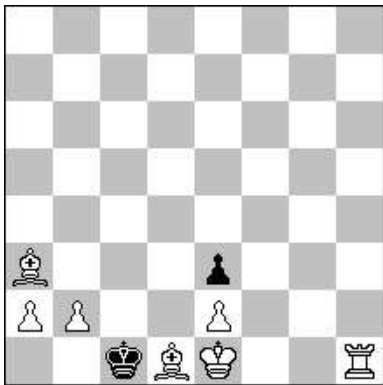


#2 (5+2)

もうお分かりだとは思いますが、(2-a)の作意は

1...xe6 2.Sh3 e5 3.Be4#
 1...Kxg1 2.Rf6 Kh1 3.Rf1#
 1...Pf6 2.Sf3 f5 3.Rh6#
 1...Pf5 2.Kf2 Kh2 3.Rh6#
 というものです。

(3) Joseph C. J. Wainwright
 (American Chess Bulletin 04/1912)



#3 (7+2)

この作品は、castlingの可否を巡る問題です。例えば 1.Bb3 Kb1 2.0-0?とすれば#2で詰んでいるように見えますが、これは本当に成立するのでしょうか？

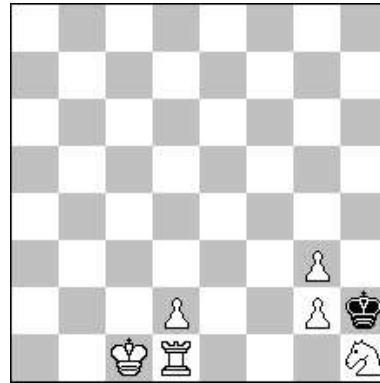
いいえ、この白の castling は illegal です。何故なら、白の3枚のPが不動である以上、白Kも不動ならば黒Kがc1に侵入するのは不可能だからです。

ということで、作意は 1.Bb3 Kb1 2.Kd1 Ka1 3.Kc2#ということになります。シンプルな配置で白の castling の不可能性を簡潔に示した本作、レトロ解析における古典の一つと言ってよいでしょう。

同様のテーマの作品をもう1作引用しておきましょう。



(3-a) Leonid Borodatov
 (Krimskaja Pravda, 1970)

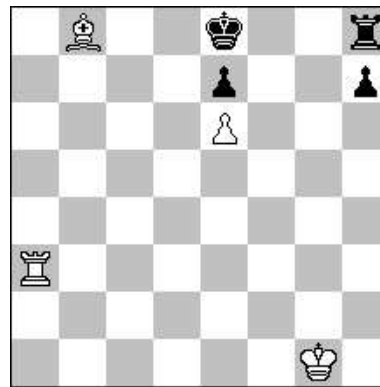


黒の最終手は？(6+1)

一見、最終手は 1.Kg1-h2?のように見えますが、それだと 1...0-0-0と戻すしかありません。ところが、この castling は illegal!(理由はお分かりですね)

よって作意は 1.Kg1xSh2 となります。これなら、1...Sf1xPh2+ 2.Ph3-h2...と戻すことが可能です。

(4) Wolfgang Pauly
 (The Chess Amateur 1913)



#2 b)+bPg2 (4+4)

Orthodox では、それが論理的に否定されない限り白から指し始めることとなります。ということは、その直前の着手は黒だった筈ですが、そうすると出題図において黒のKとRがどちらも不動ということはあり得ません。従って、a)では黒の0-0は illegalで、作意は 1.Ra8! Kf8/Rg8+ 2.Be5/Bg3# となります。尚、1.Be5?では 1...Rg8+!で逃れます。

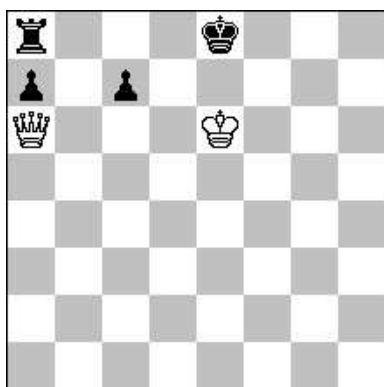
b)では、黒Pg2が加えられた為に黒のKとRが不動である可能性が出てきます。レトロでは、castling は「不可能性が証明で

きない限り可能」ですから、黒の 0-0 は今度は legal となります。よって、今度は 1.Be5! が key move となり、その後は 1...Kf8/0-0 2.Ra8/Rg3#となります。a)と同様に 1.Ra8?とすると、今度は castling によって逃れとなるのは明らかですね。

必要最小限の配置で、castling の可否を巡るロジックが鮮やかに描かれています。2 解で白の初手と 2 手目が入れ替わる構成も見事で、流石は巨匠 Pauly の作品ですね。

ちなみに、castling の可否に関するレトロ解析をプロブレムに初めて持ち込んだのは、かの有名な Sam Loyd です。

(4-a) Samuel Loyd
(Musical World 1859)

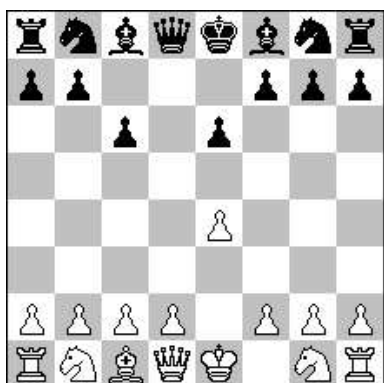


#2 (2+4)

作意は 1.Qa1! --- 2.Qh8#というもので、1...0-0-0 は illegal ! 全く無駄がなく、原理図にして完成品という感じですね。

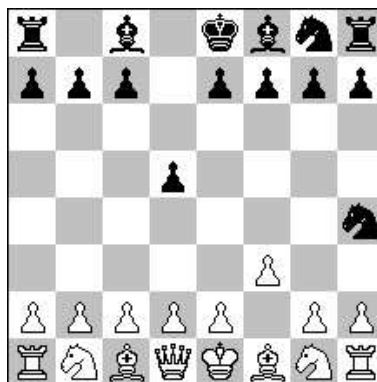
では、今月の出題です。

(5) Tibor Orban (Die Schwalbe
04/1976, Recommendation)



Proof Game in 4.0 moves (15+15)

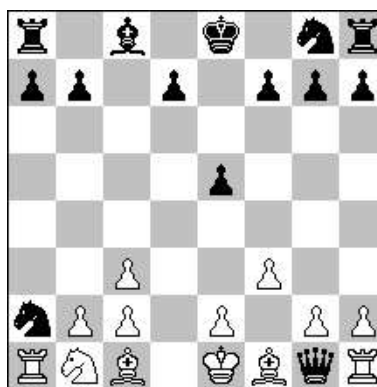
(6) Michel Caillaud
(The Problemist 1995-1996)



Proof Game in 6.5 moves (16+15)

b)7.5 moves

(7) Peter Wong
(The Problemist Supplement 9/1997)



Proof Game in 8.0 moves (13+14)

2sols.

(8) Roberto Osorio (Retro Championnat de
France RIFACE 2014)



Proof Game in 10.5 moves (15+15)

ルール説明

Proof Game : 実戦初形からお互いに反則せずに、指定された手数ちょうどで与えられた局面に達する手順を求める。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2020年3月10日(月)

推理将棋第 1 2 5 回出題

推理将棋 3 題

2020年3月15日(日)

第 118 回 WFP 作品展

フェアリー作品 8 題

推理将棋 2 題

Fairy of the Forest #62

協力詰 3 題

【(感想のみも可)】

第 4 回神無太郎の氾濫

フェアリー作品 3 題

やさしい双裸玉 Imitator【蔵出し編】占魚亭

フェアリー作品 3 題

強欲な世界 PART11 (たくぼん)

強欲協力詰 5 題

2020年4月15日(水)

第 119 回 WFP 作品展

フェアリー作品 9 題

推理将棋 2 題



作品募集締切一覧

2020年3月15日(日) 投稿締切

東京オリンピック開催記念作品展

課題：東京オリンピックに因んだフェアリー作品、推理将棋 (1人何作でも可) こじつけ OK です。

投稿先：たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

※当初詰四会フェアリー作品展としておりましたが、詰四会といっても私だけしか関与しておらず、1月の例会は不参加で承諾を得ておらないため作品展の名称を変更しました。

2020年4月17日(金) 投稿締切

第 52 回神無一族の氾濫

課題：ルールの回避 & ばか詰 1 題

※「与えられたルール独自の効果が発動することを回避する」狙いを持った天邪鬼な作品をお寄せください。一人何作でも可

投稿先：神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com)

(詳細は P3~12、WFP 作品展出題稿をご覧ください)

2020 年 第 140 号

Web Fairy Paradise

非売品

令和二年二月号

令和二年二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp